

『潟スキー』 谷津干潟クリーン作戦に登場し、活躍しています

ふかんど

第301号

1984.8.20

谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津三七七 鷗荘E号
 電話〇四七四一五〇四〇
 文責・編集 森田三郎

会費年2000

創 立
1974.12.9

事務局0474-517076 中村容子



潟スキーにゴミをのせ、手と足でこいでいる。「行きはよりよ、帰りはこわり」で、中々重い。まわりにはカニがいっぱい。

孝案、着手、実行あるのみ

東京湾は勿論、東日本では初めてだろう。谷津干潟クリーン作戦にとって、又、干潟自体にとっても、新たな、そして画期的な試みである。それは、今までは干潟のまわ

りの清掃でチリッぱいだったので、干潟の中、とくに広い中央部には手が届にくかったからである。

クリーン作戦の強力な武器

ここからと、いろいろな試行錯誤が続くであろう。板の厚さ、長さ、巾、そして材質など。又、潟スキーを使いこなす私産の能力などが。

しかし、作って、使ってみて、今までにわかっていたことは、ゴミを拾える量、時間、労力が、歩いていく時よりよるかに、比較にならないうらいに良くなったことである。

とにかく汚れる。でも、本当にいいスポーツだと思ふ。又、ゴミの全身での格闘でもある。クリーン作戦の新たな展開である。



ここは干潟の中央部。潟スキーで滑って行って、ゴミを集め、スキーにのせているところ。ゴミはタイヤポリバケツなど。

とにかく作ってみて、使ってみようというわけ。オ1号の“進潟式”。ロープをつけてみるのも試みのひとつ。それだけ。



地下足袋に脚絆が最も適している。最初に使ったのは長塚さんです。私産もやってみて、そう思った。

写真はいずれも、長塚進吉氏です。8月12日(日)

あずま屋の作成には、主婦・子供も助けてくれました。

あずま屋の
等にヨシメリ屋根をふく
したたる汗もなんのその
流した分だけやかてのち
みんなが小屋で涼しいよ

汗をかき
値打ちありなん夏の日の
干潟の作業終えたら
菫の空に滲みわたる
風と水面と鳥の群



この度、干潟のすぐそばの「谷津
三丁目町会」へ会長・戸張さんと
より昨年に続き、今年も又クリーン
作戦の為に一万冊のカンパを頂き
ました。皆様に報告すると共に、御
礼を申し上げさせて頂きます。谷津
干潟が、多くの市民に好かれますよ
うに。

クリーン作戦の為に

母と子の図書室

「ハンカチ形の海の思い出」 森
百合子作 岩淵慶造絵 (講談社
980円)

野鳥のために
干潟を守る人々

炎天下、汗だくでヨシを刈る長
塚さん。ヨシ野の中は暑いのなん
のって、ゆえ長塚さん、大変ですよ。

「ハンカチ形の海の思い出」
というのは、東京湾の埋
め埋めたられないまま残り、
二つの水路によって海と
つながっている。だから海の
生物も豊富で、春夏秋冬にわ
たって、さまざまな野鳥の生
息地になっているのだが、ヨ
シが捨てられ、下水が流わ
んで、汚れ放題になっている。
近くの団地に引っ越してきた
四年生のエリカは、この干潟
をきれいにし、鳥獣保護区に
する運動に夢中になっている
おじさんと出逢い、心うたれ
るのであった。
干潟保存に青春をかけた、
実在する人物をもとにした創
作児童文学。
自然環境保護に生きる姿に
接して、さまざまな立場の人
たちが、自分の生きかたを考
えなおす姿を描いているの
が印象的である。小学1級向
き。
(児童文学評論家・渋谷清
視)

会員の長塚さんが、自宅(習志野市・
秋津)近くの遊歩道で見つけた。体じ
やうに釣糸がかからみついていました。



建物にぶつかったのだろうか、眼球が半
ばえぐられるようにして出ていた。中村さん
の保護も空しく、苦しんだ末、死んでしまった。

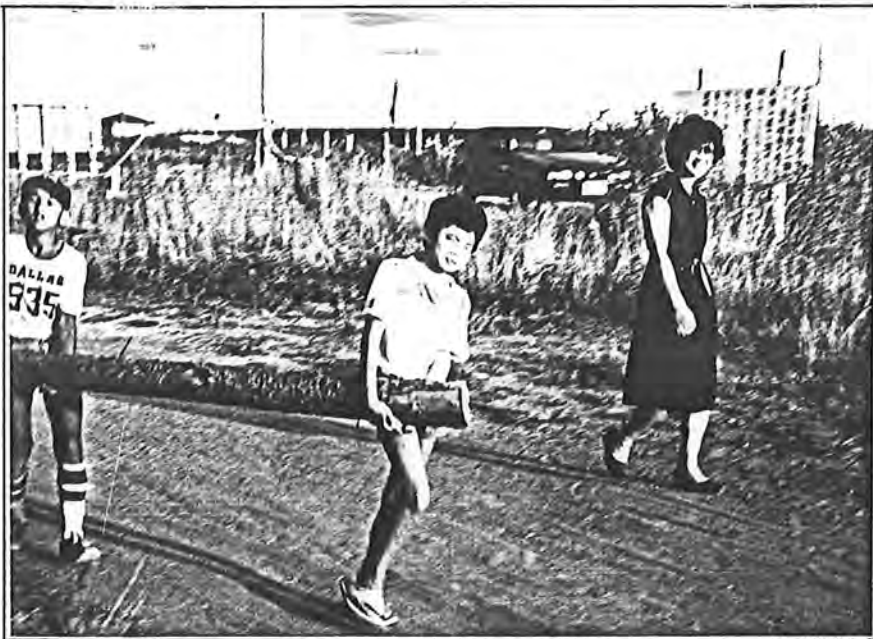


ガンバッテマス！ 連日の暑さもなんのその、クリーン作戦は進むのだ



とに角、猛暑の下での作業。土人小屋「いそしぎ」で、ジュースを飲みつつ話中。

干潟によく来る子供、仁くんと康丸くん。小屋の柱にと、丸太を持って来てくれた。



我ら、地の塩、あるいは
からし種の如くならん
記録的な暑さが続きます。
会員の皆様は、いかがお過ごしでしょうか。くわぐれと、お体を大事にな

さって下さり。
綿々たる活動……。ごく普通の、ごく当
り前の、そして日常的な私産の活動を伝え
る「ふかんど」と、いつの由にか300号を越
えてしまいました。「潟スキー」もその一つ。
生命に満ちくた干潟で、今活躍しています。

暑さに負けたなっ！



潟スキーで戻られて来た、大型車のタイヤを引き上げた。10年来、見ていただけのゴミ。

いち日の作業の終り。旗、標本、パネル、大工道具、その他。片付けているのは中村さん。



ふかんど

№302号

1984.9.1

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津平字七郎在E号
電話〇四七四一五〇四四
文責・木林 田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局0474-517076 中村

子供達、ありがとっ。↓



メダカの池のヤンマ達
ホカヤナガで飛び交いて
しほで波紋作ってる

炎天下
ゆじりあちちにぎやかに
お日様西に傾くは
それ喉干やれ喉干月見草



夏雲の
湧くが如きの想いで
往住座臥の十年なれ
信せまほしや「ふかんど」の
器とならん 船ならん

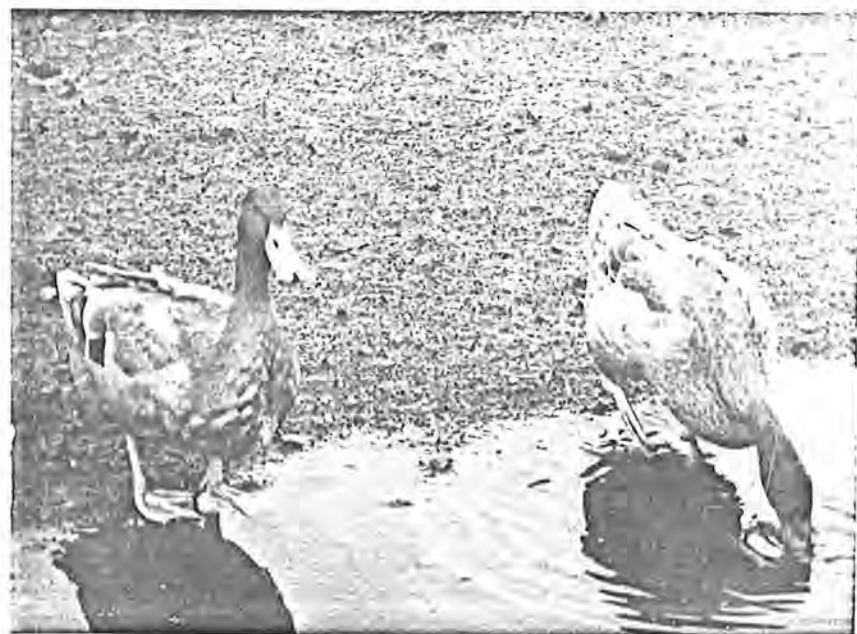
ギョロギョロと
鳴いてヨシリ揺れ動き
葉ずれの音も涼やかに
ヨシ野の空は 茜色

炎天下の谷津干潟で
去る八月一日。PHPから出版
された「とりとどせ、ぼくたちの
海」の御礼にと、暑い中を来て
くれました。ありがたうございます。
写真は左から、PHP研究所
の岡島康治氏、作者の岡本文
良氏、さし絵の高田勲氏、そして
森田。時々、本屋さんに立ち寄る
が、克己行きは良いとのことですが。



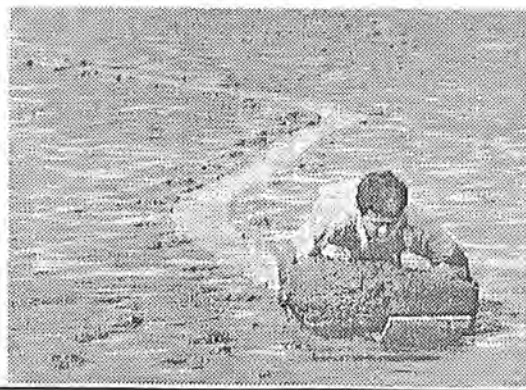
あれっ?!、アヒルの夫婦が

7月の初め頃に見つけました。カモよりひと
まわり大きく、夫婦で連れそっていました。
人の近くまで来て、逃げないのでいるのです。



ガタスキー清掃 習志野
十年前から谷津干潟の清掃を
続ける習志野市谷津三丁目、タ
クシー運転手森田三郎さん(左)
が、干潟清掃の新兵器「ガタス
キー」を製作、十九日行われた
谷津干潟クリーン作戦に初登場
した。九州・有明海のムツゴロ
ウ漁の漁具であるガタスキーを
まねたもので、着足で入るより
数倍も効率がよく、さっそうと威
力を発揮した。写真。
有明海では、幅広のスキー板
のようなガタスキーに漁師が乗
って湖の引いた干潟へ出かけ、
ムツゴロウをとる。森田さんた
ちが清掃活動に取り組む谷津干
潟は有明海ほどではないが、約

四十坪あり、泥が深いため干潟
中央部の大きなゴミを運び出す
のは大変な作業だった。
森田さん考案のガタスキー
は、一枚板の先端に「反り」を
加えた簡単なもの。この日、ク
リーン作戦に参加した干潟環境
美化委員会のメンバーたちと
もに現地で三台を製作、早速使
ってみたが、十年前から居座っ
ていた大型車のタイヤも乗っ
付いた。森田さんは「これを使
って秋までに大型ゴミを全部取
り除き、その代わりに指標のク
イや野鳥のとまり木を据えつけ
たい」と話している。



この会報が白さんの手に届く
頃には、強度、性能の改良を
加えつつ、本格的に展開しています。

ふるさとづくりの為に、まちづくりの為に、谷津干潟を残したい

ふかんど

№303号

1984.9.12

谷津干潟愛護研究会
 〒203 習志野市谷津干潟七郎荘E号
 電話〇四七四一五一一〇四四
 支責 森田三郎

会費年200

創立
1974.12.9

幼児教室の

母親と子供達へ

谷津干潟と、私(森田)の生り立ち、そして干潟の保存へと駆り立てるものは何かなどについて、話をしてくれよう。母親達から依頼があった。

はじめ、講演と聞かされた時、「そういふのは、余り好きじゃない」と言ったり、自由にお願ひしますということで一任させてもらった。

思い切って、話すつもりでいる。時間は二時間ですという。その後、質問して答えたいという形をとりたいとの事。

私達は、谷津干潟を、自然環境保存のみならず、「ふるさとづくり」、「まちづくり」として考えている。

ましてや、子供達にとっては、たとえどこであろうと、自分の産まれ育った所が「ふるさと」なのである。

私達の運動が、いろんな方面へ、いろんな形で発展していくのは、大変うれしいことである。これからと末永く続けてゆこう。

日時 10月14日(日) PM 2:00 ~ 5:00
 場所 袖ヶ浦幼児教室

尚、長年谷津干潟と埋め立て地の液り島や環境字頁を撮り続けている、五十嵐吉夫氏のスライド大会と考えています。

谷津干潟の清掃をする森田さん

小六の道徳副読本に

(毎日新聞)

森田さんの活動が掲載されるのは学習研究社(本社・東京大田区)発行の「みんなの論」に執筆依頼があった。どうと「の小学六年用の後半の千葉版教材三編のうち半の千葉版教材三編のうちの一編。同社の副読本が来春から高学年用もB5判からA4判に大型化する機会に内容

習志野市の野鳥の楽園、谷津干潟の清掃活動を続けている谷津干潟愛護研究会の森田三郎会長(左)の活動ぶりが来春から県内の小学校六年用の道徳の副読本の一部で紹介される。「自然保護の大切さや自分の信じる道を一人黙々と歩むその生き様を児童たちに知ってほしい」と出版社と執筆者はその意義を話している。

黙々と生きる婆学ぼう

子供に自然保護の大切さを教える



清掃をする森田さん

て考えようと思っ山にくわをちこみ、ゴミをた。たまたま執筆の話があっほりおこし、大きな袋の中にたので、書いてみた」と話している。多日は、袋に十個ほどにもなる」

内容は、谷津干潟が東京湾の埋め立てなど開発攻勢の中で、わずかに残った大切な自然の宝であることを説明。さらに森田さんが干潟の自然を守るため続けている清掃活動を詳しく紹介している。

「森田さんの仕事は、まず、そのゴミをひろう事から始まった。腰まで泥につかりながら、一日も休まずゴミの

森田さんは言う。「春にの干潟の泥に、アシのみをのを見る楽しみ。アシの身が伸びるといっしょに、カニの穴が、日に日にふえていく楽しみ……。そんな楽しみがたくさんあるからゴミをひろう仕事が続けられるのさ」

そして最後に「一人黙々とゴミひろいをおこなう森田さんの気持ちについて考えてみましょう。私たちの住んでいる地域の環境を守るため私たちにできる事はどんな事なのか考えてみましょう」と結んでいる。八木下教諭は「大声で叫びまくる人の主張ばかりがまかりとおったり、派手な活動ばかりが目がいまの世の中で、森田さんのような生き方について子供たちと一緒に考えたい」と思っ書いてみた」と話している。

当日、「とりとどせ、ぼく達の海」「ハンカチ形の海の思い出」を販売の事。袖ヶ浦 幼児教室 - 保育の会 担当 島貫 (0474・54・6788)

自然破壊こんな

東京湾観察の勉強会

保護団体60人

東京湾の現状を海から観察（シクリト護岸と煙突、石油タシ、東京湾の抱える様々な問題）について考えようという東京湾問題勉強会が九日開かれた。主催は自然保護団体「千葉の干潟を守る会」（大浜清代表）と「千葉県自然保護連合」（石川敏雄代表）、それに、東京湾のあり方を考えようという今年七月発足した市民グループ「東京湾会議」（宮永五郎議長）。各地の自然保護団体のメンバーや漁民、高校生ら六十人が参加、コ

この勉強会は今年度二回目。前回は湾内の生態を研究した。今回は湾内の生態を研究した。前回は湾内の生態を研究した。前回は湾内の生態を研究した。

これから、機会あるごとに

とにかく、参加して、見て、そして知りたいたいと思っていました。愛護研究会からは、6人が参加させて頂きました。長塚進吉・五十嵐吉夫・山崎統司・宮脇智嘉男の各氏・森田三郎、そして中村憲昭（小六）です。世話役の皆さん、ありがとうございました。

答が行われた。東京湾では五十七年、マイワシの七千二百を筆頭に合計一万を越す水揚げを記録している。参加者の中には、東京湾で漁業が行われていることを知らなかった人もいて、質問が相次ぎ、夕方まで熱心な話し合いが続いた。

谷津干潟を以って、地域に貢献したいと思つた。

谷津干潟と、よこでの活動が、何らかの形で地元地域に貢献できれば、私産はこんなうれしいことはありません。

私産のしていることが、自然保護というだけでなく、いろんな形で、いろんな方法で地域の中で根付き、結果としていつか欲していることでもあります。

しかし、それは意図するものではなく、努力が、邁進するのみであつた。

仕事をした。驚きました。私の体がつかっていたのは、サラリーマン文化とびも言へば会社中心の文化。地元には、主婦や老人子供が独自の文化を楽しんでいるのです。2つは全く異質の文化です。地元の文化は、豊かに見つけているのが、男性不在の文化。また、ふたりにして個人バラバラです。自然（土地）と一体の文化ではありません。生活時間の一時集束だけで、分れていくのです。そんな地元の文化の中で、森田さんを中心とした谷津干潟愛護研究会の活動は、貴重です。こんな活動が、あちこちに飛び火していかなければと思います。サラリーマン文化とびの男性をひっぱり込む役目は、私達主婦の方です。

おとまりません。この辺り 矢張り、

学生時代 セーターで、成田市郊外の大栄町という所に行って、その生活調査をしたことがあります。一様に迷惑そうにそればかり、たく工場のことを体験し、今も、忘れられない点がいっぱいあります。そのついで、若者の土地への愛着が強まると驚かされた。農業、酪農を継ぐ青年たちの土地を守らなければならない。行政への感心は非常に高く、定期的に開かれる青年会では、行政への厳しい意見が飛び出し、熱気がいっぱいでした。時は、三里塚闘争のただ中でした。ノンポリ学生だった私は、熱気に押され、逃げるようにして帰ってきたのでした。

現在住んでいる田舎町は、新興住宅街。ほとんどの方が、東京に勤めるサラリーマン。その奥工場の半数はパートで不在です。顔は知っているが、あいつはしほひが普通。ゴミが落ちていても、わざわざ拾う人はいません（自治会としては、年に何回か皆でその地区をまわっているようです）住んでいるのは、我々も里ではないので、夜帰って来て寝るだけの場所、愛着が沸いていないのです。

私も、子供ができて、95% サラリーマンでした。子供ができて、転職して、ふとしたことから、船橋市民文化の一端を調べよう

手紙を寄せてくれたのは、野中公子さんです。（船橋西武で販売促進を担当）

∴ 干潟中央部のゴミ、渡り鳥のシーズン前になんとか、“冬將軍”の来る前に、でも、しんどいなあ

びっくりしました、谷津干潟にカブトガニがすんでいたなんて---

ふわんど

№304号

1984.9.24

谷津干潟愛護研究会
 〒270 習志野市谷津干潟 郵便E号
 電話0476-41-5150(四四)
 文責 森田三郎

会費 年2000

創 立
 1974.12.9



「ふるあけの中では、サマに
 ならぬ」と五十嵐さん。

フジツボをいっぱいつけていた。

9日午後2時頃。朝日新聞社から森田に、「いつはゆえ、先程谷津干潟のすぐ近くの、秋津団地の人から、干潟でカブトガニをつかまえた、という電話があったんですよ。んで、こちからすぐ行くんですが、森田さんといっしょに行きませ

んか。あはは、特ちようがあるから、素人でも向慮うことはないから、きこと本物だよー、しと連絡があった。で、野鳥写真家の五十嵐さんと急いで行った。やあくく、ほんとうに実物のカブトガニだった。おどろきました。ここで生まれたのではあるまいか、谷津干潟が棲めることは、東証されたわけだ。

緑地帯



干潟に生きた化石

習志野

生きた化石といわれるカブトガニが習志野市谷津の谷津干潟で見つかった写真。同市秋津



一丁目、翻訳家島田善一さん、国などの一部で、地域によって(口)が九日後、家族とカニ取りの深さの異なる干潟で、その発見したもので、島田善一さんは「天然記念物」として知られていますが、まさかこんなところにもいた

島田さんが見つけたカブトガニは長さ五十五センチ、甲の幅二十九センチ。そこにはフジツボを捕らえている。岸から見ると島田さんの妻(一)さん(三)は「ミミかと思いましたが、このカブトガニ、とりあえず島田さん方のおおけに任せましたが、飼ってもおけず、一晩置いた後、水族館まで引き取りを依頼するつもり。

地は北九州、四

カブトガニ安住の地

館

習志野市の谷津干潟で、同市(口)と話している。秋津一丁目、翻訳家島田善一さん(口)が保護したカブトガニの引き取り先がようやく決まり、十二日、館山市の県水産共同養殖所の水槽に抱きました。実習所では一般公開されることになつており、島田さんの妻(一)さん(三)は「五つと寂しいけど家族で会いに行きますか

かかかてん「水槽がいっぱい」「持って来てくれれば……」「とれない返事だった。水産養殖所も「責任をもちて引き取るが取りにはいけない」といふ回答だったため、島田さんは一層海にかえすことに決めたという。しかし、家族らが「会えなくなるのはいや」と反対したため、母親の利さん(三)が車で運んだ。

実習所の大水槽に入れられたカブトガニは、タイなどの泳ぐ下で「コンコン、ガサガサ、ふ

↑1984.9.14
 朝日新聞
 1984.9.10 →



この日、日曜日といふこととあって、干潟に来ていた人達はみんなびっくり。

……とし、カブトガニが、谷津干潟で産卵していただらいのになあ。

カメが来て
アマモのつぎに
カブトガニ

ガツスキー
干潟めぐりに、ハルマコ
トビハゼ、ヒョウヒョウ
秋のそら

フジツボを
いっぱいつけたカブトガニ
ながくすんだか
すみよくて

カブトガニが、谷津干潟で見つかりました。体長5.5cm、巾2.9cmの堂々たるものです。

発見者は干潟のすぐ近く、秋津団地にお住まいの、島田善一さんです。去る9日(日)の午後2時頃、子供さんの為にカニをとってやろうと思い、干潟の中を歩いている時に見つけたとのこと。知らせを受けた私達は、「まさか、でもホントかも……」と思いながら島田さん宅に駆けつけました。

カブトガニは「身の振り方」が決まるまで、バスタブに入れて飼っておくということです。おかげで島田さんのうちは、お風呂に入れないので、シャワーでがまんしているそうです。

私達も出来るだけ協力することにして、18ℓのポリタンクを二つ用意し毎日海水を汲んで、島田さんのうちへ届けています。

「谷津干潟でも、カブトガニかなんか見つからないかな……。棲むには恰好の所なんだがな」と、時々私達は話していました。ところが、今度それが、とうとうほんとうになってしまったのです。

谷津干潟で繁殖したとは思えないけれども、少なくとも、生息出来る環境であることは実証されたわけです。誰かが放したのでしょう。でも、もしかしたら、産卵でもしていたら、これからも、ほかに姿を見る可能性があるわけです。もしそうだとしたら……、そう考えると胸がわくわくとしてきてしまいます。他愛ない夢かも知れませんが……。でも、楽しみがあるっていうことは、いいですね。

文責・森田三郎

潟スキーを作って、使って、クリーン作戦と観察。

9月30日(日)午後一時～二時半

日本ナチュラリスト協会のリーダー(千葉大学生3人)が、干潟に来て、Yの申し込みがありました。彼らは、潟スキーを使ってみて、大変気に入ったとのこと。当日、観察会をしたあと、約30人の子供産がクリーン作戦をします。

望遠鏡や図鑑をあてにして来る人が増えていきます。「あー、これちょっとのびかして下さり」とか、「これ、自由に使うよーしんでしょつかう」と、よく言われて来た人産が増えていきます。ここに来れば、望遠鏡を貸してくださるといいますが、だんくと言ったのでし

おかあさんに叱られないかい？

「うん、んだからぬ、ぼくたちね、いくら汚れてもダイジョーブなんだ」と、子供産は話すのでした。今、休みの天気の良い日には、たくさんの子供産がバシタヤカニをとりに来ています。か左りの母親が、子供産に積極的にようさせているのです。



夏休み、子供たちの谷津干潟

ふかんど

第305号

1984.10.10

谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津三十七 郵便番号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責・森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.6

触れ合りの
場として

今年の夏も、子供
 達がたくさん干潟にや
 って来ました。干潟
 だけでなく、草ぼうで
 はチョウヤバッタ、草
 やメダカをとり、

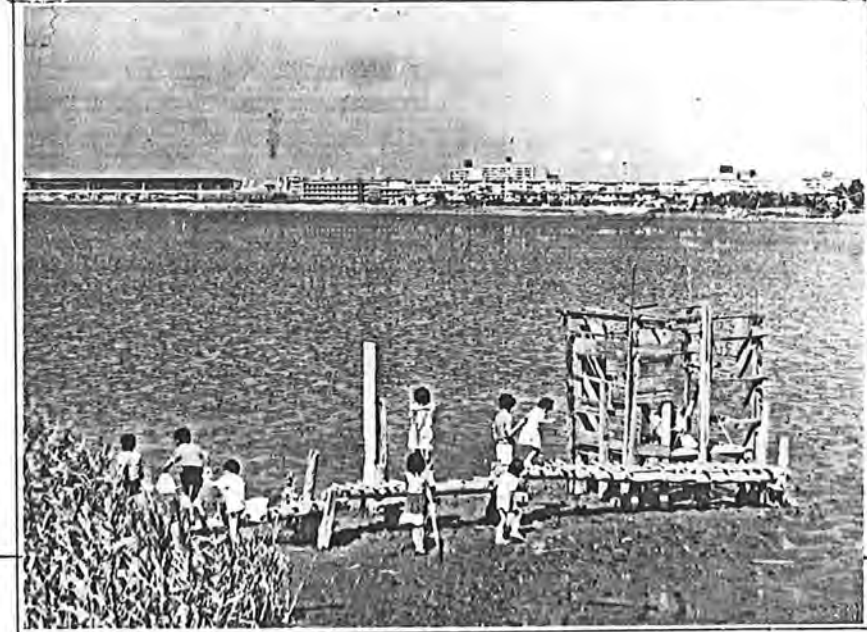
でも、将来は、そん
 なりの施設を作るなり、
 区域を決めるなりの
 方策を決めねばな
 らないと思っております。

潮が引いてる時、ミ
 オは川のように。魚があち
 こちではゆ、何とかとら
 すと。



このお母さん、子供たちを、カ
 ニとりに連れて来て、いっしょに面
 倒みしている。でも、いっしょにたよ。

大きなビニール袋を持って
 カニをとっているところ。歩
 くそばからカニは穴の中へ。
 まだ一匹ととれなっています。



“水上観察舎めぐり”
 いや、ほんとうに、とっても子
 供たちに人気があるんです。

ハゼを釣る子供たち。そ
 れがいつも、毎日いっしょに来る
 のです。でも、年々子供の
 マナーをよくなくなってきます。





すばらしく天気の良かった、暑さ中の夏のクリーン作戦の日。体は勿論、手袋の中も汗でぐっしょり。ハナの先から汗かポタポタと。終わってから氷のジュースを飲んだ。

おしゃべりをしながらのゴミ拾い。ひとしきり作業が終ればなおさらのこと。今日はゴミを少なく、話しの方が長かった。



所は谷津3丁目目の干潟。
以前は、捨てられなくなった生活道具のゴミを拾うだけで手いっぱいでした。それは、くる日もくる日も、毎日、毎年続けられました。捨てる側と拾う側のイタチごっこでした。
でも、今は流れて来るゴミだけを拾うようになりました。この日のクリーン作戦は、主婦の為、主婦で決められたものです。

朝から小雨が降っていた。でも、月1回の1時間だからと、決行しました。その後、手作りのケーキとコーヒーをいただき、体を温めました。



小さな力だけけれど...
かつて、この堤防の高さまで、いくつものゴミの山がありました。今、雑草をとってます。



この日、干潟のすぐそばに住むおばあさんが、お茶とせんべいを出してくれました。おばあさんちは以前、納涼台をやっていました。



こつこつと、しこしこやってる 谷津干潟友の会

ふかんど

第306号

1984.10.1

谷津干潟愛護研究会
 〒276 習志野市谷津津七 鶴荘五号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責・森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

「日曜日にはさあ、あすこ(干潟)でいつと何かやろうよ。んでさあ、望遠鏡なんか自由に使わせてくれて、鳥を観察出来るようになったんだ。それでよい。そう干潟のまわりの土産が知ってくれば、それだけでよい。」

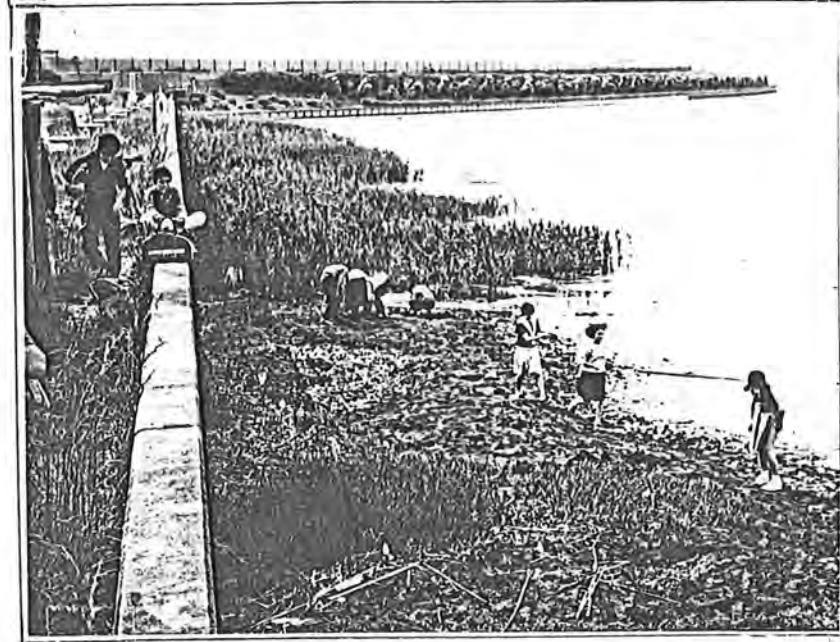
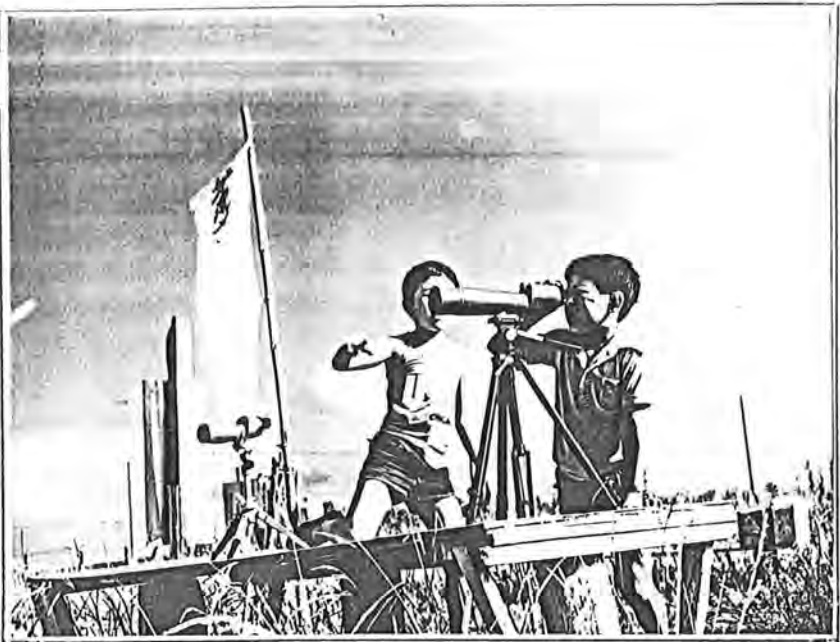
たったそれだけのことを、知られるようになったまで、約5年向経かかりました。

土産も、作業の合間、手のあいている人、あるいは休けいしている時に説明してあげている。又、すぐそばに、「望遠鏡・図かんを自由にお使い下さい」と書いた札をぶら下げてあるので、来た土産はほとんど勝手にのぞいて。思えば、大事な、物事の基盤をぬすものがそうであるように、これによって目立たない、平凡なくり返しの積み重ねが、やがて花咲く時、かくるものでしょう。

「おじさん、ぼく産にバードウォッチングもちゅうのやらせてくんない?」。

二人の中学生の女の子が来ました。夏休みの宿題に、谷津干潟。今、標本を見ている。

クリーン作戦に、協力したいという事で来た子供産。で、途中でカニをとり出した。



「ここで君産は、魚ヤカニをとったりして遊ぶんだらう?、だから小屋がこわれたら直しな」と。

あんまり運動とか方針とか規則と言うのが嫌いな人、それが 谷津干潟友の会



5年間と、黙々と、一人でです。

この方、久我喜代次さん。秋津老人会(棟の木会)の会長。とうお年は80才を越えておられる。おまけに、水もまいておくとのこと。所は谷津干潟に隣接してゐる秋津団地のバス停です。つりこの向、森田の鵜スキーのテレビを見て、清掃用にとズボンをと5本頂きました。久我さん、いっしょにかんばりましょつ。

人会としては初めてです。

「同じ会員で、まだ知らない人、顔を見たこととなり人というばいりるので、何とかとうつりつ場が欲しい、作ろうよーい」という声が出て来ました。

それととうで、運動をやり始めて以来この10年、干潟のことをやるばかりでした。反省させられました。

このへんで、私産も、一堂に会する機会をつくろうというところで意見がまとまりました。ふだん、顔を合わせたことが少ないので、是非とも一人でも多くの方の参加を希望す。

顔だけでも出して下さりねー

知ったのは偶然で、タクシーの仕事を終え、早朝通りかかた時。久我さんは以前からのよき理解者で、会うと握手を求めてくる。

谷津干潟に“青ガエル”登場

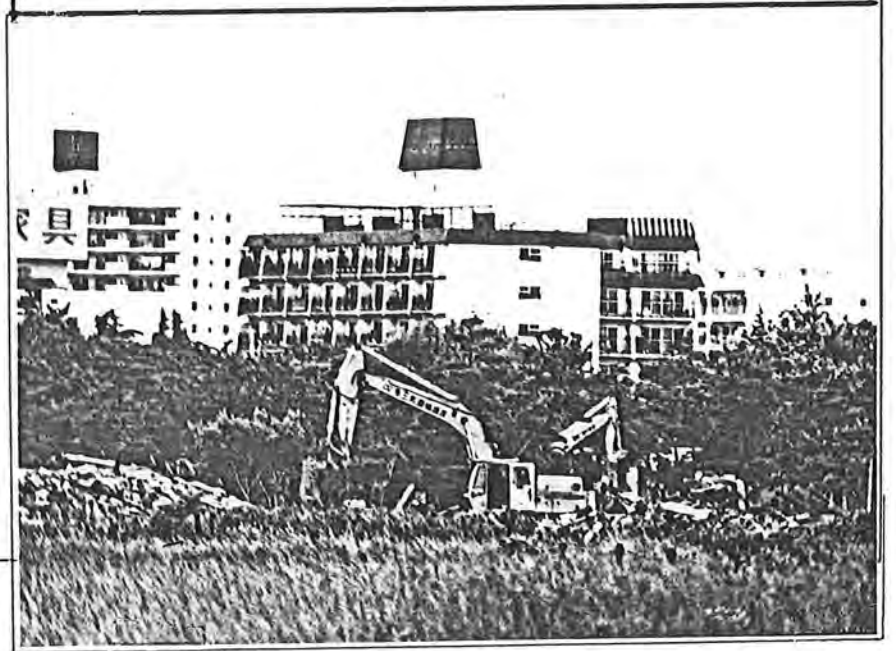


自然緑地は、メダカ池のわきの草はら。体長は2cm位。でど、大きな声で鳴くのです。初めてです。どこからどうやって来たものかつ。

1984年8月 →

撤去中の谷津遊園施設

住宅整備公団に売却が決った谷津遊園は、連日パワーショベルが動いていました。今は樹木の他は原っぱに。



1984年6月 →

草地には、とうへびもいっしょです。

ふかんど

号307

1984.10.22

谷津干潟愛護研究会
〒270 習志野市谷津字七ツ巻庄E号
電話0四七四一51一五〇西四
文責 森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局 0474・517076 中村

やはり出来る一例として
解小合い、そして保護へ

ユリカモメに引き続き、ウミネコもすぐ近くまで飛んで来て、パンのミミシを群でついでにむようになりました。

ウミネコはユリカモメに比べてひとまわり大きく、気も荒くて攻撃的な鳥です。そうそうろく／＼渡っていったまうでしよう。

投げかえているパンのミミシは、干潟にほぼ近いビバ50というショッピングセンターの中にある「モンテ・ヤマザキ」という所から毎日頂いてあります。ここ

からは又、ゴミを入れたビニール袋とたくさんとらっているのです。

石やゴミを投げる人が

少なくなりました

根気よく、餌付けをし続け、野鳥産卵期の届くばかりの所に飛んできているのです。その合間、私産とゴミを拾っています。きっと、そのせりでしょう。

近所の人産とあちこちで

お年寄りや、子供連水のお母さん産と私産の真似をして、パンのミミシを投げている光景が見られなくなった。

干潟に来たら お立ち寄り下さい

毎週日曜日ごとや休日には必ず、谷津干潟に来ていろいろな作業をしています。

私産の活動は、出来る人が、出来ることを、出来る時にするのがモットーです。気楽に、息長く続けていきたいのです。

作業の合間に話をする
長塚さん(左)と宮脇さん(右)



何の話をしているのかな。
中村さん(上)と宮川さん(下)



吹きさらしの中での作業、お互いに風邪をひかないようにしましょう。

これからはチームを編成する計画です。

地域市民のつどい

「自然保護の立場から」

谷津干潟の将来の展望

11月2日(金)午後一時し

三時半

袖ヶ浦公民館

講師 日本鳥類保護連盟

事務局長

主催 習志野市選挙管理委員会

習志野市明るい選挙推進

協議会

江原秀典氏

後援 習志野市教育委員会

「谷津干潟と私産」

パネル写真展

10月26日し10月30日

谷津公民館

・谷津干潟の渡り鳥。・谷津干

潟の主物たち(カニ、魚、貝など)

・谷津干潟で遊ぶ人たち。・谷津

干潟クリーン作戦。・干潟と埋め立て

地の風景写真。・干潟の周辺で繁

殖する渡り鳥。その他。

今まで、約30回やってきました。これからと

いろんな時と所で回を重ねていきたい。

ユリカモメの餌付けと
融氷合いと保護の為に

とっどぎすると、あの真っ白い翼の
ユリカモメ産が渡って来ます。

すでに、ほんの数羽の先頭グループが

とっ姿を見せてります。やがて、これか
ら、週を重ねるごとに、数百羽、数千
羽の大群が私産の谷津干潟にやって
来て、きれいな乱舞する光景が見ら
れます。パンのミミシをどらりて来て、キ
ザンで、干潟で投げたこと。毎日であ
れば冬のことも、更に大変なのです。

どうせまた
腰まで水と
泥ならば
パンツはくのか
濡ったくない

潟スキー
干潟のまん中 いい気持ち
鳥と魚とカニ達が
ぐりにいっばい
オレ大将

水の中
つかけて拾うし
この水は
肌につめたい
秋のかせ

今年また
アマガモが生えたよ
うれしいなあ
まい日見るのか
はげみです

そろそろ、水の中での作業はあんまりやらないうようにしよう、シンドイン

みんなに親しんで欲しい

日本ナチュラリスト協会・京葉支部、潟スキーを楽しむ

ふかんど

オ308号

1984.10.25

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津字せむ 鶴荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田三郎

会費年2000

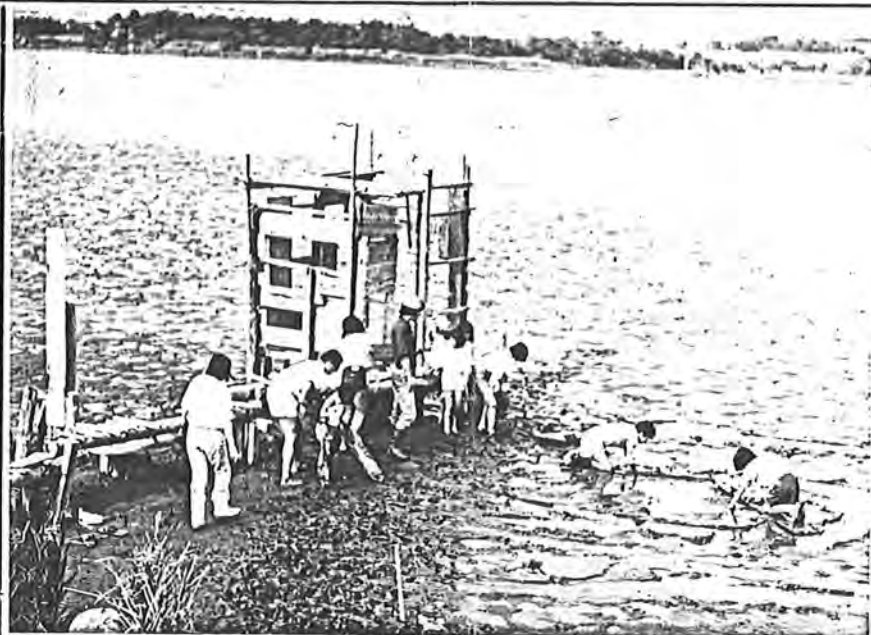
創 立
1974.12.9

事務局 0474-51-7076 中村容子

泥だらけになって

9月30日(日)、木村陽子さんをはじめ、千葉大生3人のリーダーと共に、20人の子供たちが谷津干潟に来ました。申しわけ程度に野鳥観察

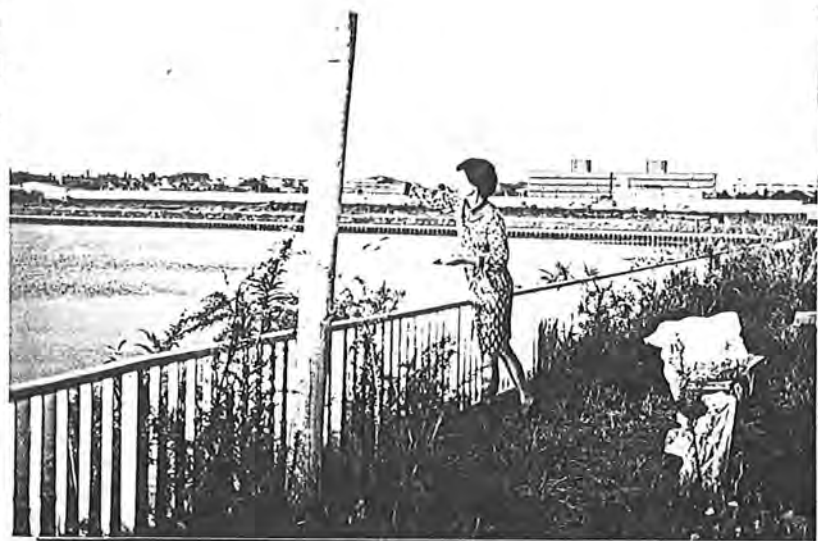
観察をしたあと、さっそく干潟の中に入って、〃潟スキー〃ごっこで遊んでいました。又、クリーン作戦をしながら、カニヤゴカイをつかまえて観察してしました。



危害さえ加えなければ

毎日午後2時頃、パンを投げに行く。その世話を殆んどひとりで引き受けてくれている中村さんは、「毎日干潟に行くことが、とっても楽しみなんですよ。人は、雨や雪が降ってくるのによくても、まあ、エライよねえ、なんて言っけど、でも、私が来るのをカモメ産が待ってるかと思ってるんです。」

中村さんが立っただけで、ユリカモメは飛んでくるようになりました。カモメです。



近所の人々も、よく見物に来るのです。

中村さん、近所の子供から「カモメおばさん」と言われたいです。



几年前、松葉杖で幼児産と干潟に行ったことがあった。保育の会の皆さん、ありがとう。

あっと言う間の3時間
でした。

講演時間の時間、こん談会1時間でした。話す前は長いと思っていたが、やってみて短かく感じた。生り立ちや運動のこと、卒直に話そうと思っていた。これからと、こういう機会があったらじゃんく、やってりこう。

幾千の
波とチドリが夕陽浴び
流れる雲に群れ舞うは
行かたりの 紙吹雪

ふさふさと
ヨシ野の穂先が
陽に光る
コオロギ鳴いて
秋は成る

母と子が
パンズ投げれば
ウミネコの
ついで水音
秋の風

水と空気をすっかり冷たくなりました。
私産が干潟のまわりのゴミを捨てるのは、干潟に落ちる前に捨てるという「水際作戦」です。

市民が通る一般
道路に向けてある。
「野球のボール
に注意して下さい。
で、事故の責任
はとりません」?



おかしいなあ、この看板

一果立津田沼高校野球部



産経新聞
1984
・7
・30

「ハンカチ形の
海の思い出」
森百合子著
開隆社 九八〇円

「ごみおじさん」は国有地の干潟に捨てられるゴミを、毎日片付けて、鳥たちの住みやすい場所にするため、もう十数年頑張っています。少女エリカは、この「ごみおじさん」と仲良しになったお陰で、セイタカ

いろいろな問題投げかけて

に問題を作る仕事の責任者です。そのため、地域の人から悪口をいわれ、そのことも原因して母親は入院してしまっただけです。それだけの立場を理解しながら、なんとか生きていく方法はないものか、エリカも孝二も「おじさん」も、役所の孝二の父も考え悩むのです。
社会問題、さらには男女の愛にも目ざめはじめた年ごろの子供たちに問題を投げかける作品です。
(小学校高学年向き)

波乗りから「鵜乗り」へ

「森田さん、これって、使ってみませんか。奥はうちの息子のなんだけど、どう使わなくなったらからいー」と。

そう言ってく私達にくれたのは、干潟に近リシヨシペンギンガーデン・ビバ50の中にある、「ロアール」という名の喫茶店のマスター。ありがとう。



巾50cm、長さ約170cm。新品だと10数万、中古で4万位。早速使ってみよう。

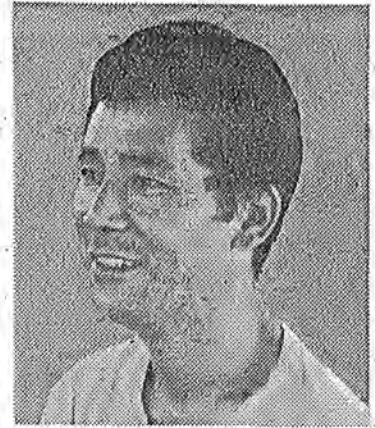
編集委員の要請で資料提供す

現在習志野市は、市制30周年を記念して「習志野市史」を作成しています。先日、その編集委員をして下さる大道和幸氏（市内谷津小教師）より愛護研究会に問い合わせがあり、私産と出来だけ協力したのでどうなりました。

提供資料は、干潟の想い出のイラスト。昔の干潟の写真。埋め立て中の写真。渡り鳥や環境写真。



ウミネコは人気者。東京湾の奥に残された野鳥の楽園、習志野市の谷津干潟で、見物人の与えるパンくずがカモメが集まっている写真。谷津



船橋市生まれ。東洋大中退。74年、新聞配達中に谷津の清掃を開始。80年に第一回「クリーン作戦」谷津干潟愛護研究会会長。タクシー会社勤務。39歳。

「ふかんのんが発行する手作り新聞の題名に創作物語の「ハンカチ形の海の思」を開始。「自分をばぐんぐんぐれ呼び声常にききもなっている。最近、三百号を突い出」（森田百子著、調談社刊）九 た干潟に何をしてもやるのか。自己やり願わく破した。マスコミで紹介された森 百八十円」と、ノンフィクション 分にとって価値あることをしたは我をして。そ 田さんの生きざまに打たれた二人 「とりもどせ、ぼくたちの海（岡 い）という気持ちからだった。運を入れる器たちの児童文学作家が、このほど相次 本文良著、P.H.P.研究所、八百八 動家にみられがちな理屈っぽさやしめよ。」

森田さんの名 刺の裏に刷って あろつた。「私の気持ちにこれです」とさし出してくれた。「ふかんと」とは土地の人の言葉で谷津干潟のことだが、森田さ

谷津干潟の「クリーン作戦」を児童文学で紹介した

もりた さぶろう

森田 三郎さん

の干潟が谷津干潟。日本でも最大規模の渡り鳥の渡来地で、約二百種の野鳥が羽を休める。ことしのバードウィークには、ここで日本野鳥の会の「バード・ウォッチング・フェスティバル」も開かれた。ちよと十年前の七十四年十一月相次ぐ埋立てで谷津干潟が「死海」と化し、魚介類が死滅しかけていたことを知った森田さん、は、たった一人で「クリーン作戦」

干潟には、カモメ類やオモなど、現在三十種余りの野鳥が見られる。同研究会は二十六日から三十日まで、同市谷津四丁目の谷津公民館で写真展を開き、これらの野鳥や会の活動などを紹介する。

クリーン作戦は今までにいろいろな困難に直面して参りました。これからがんばろう。

社会新報 ↑
1984.10.23

朝日新聞 →
1984.10.26

カモも来るようになりました。時にはセグロカモメも来ます。

ふかんど

№310号

1984.11.10

谷津干潟愛護研究会
 〒276 習志野市谷津津七七 鷗荘E号
 電話〇四七四一五〇四四
 文責・森田三郎

会費 年2000

創立 1974.12.9

事務局 0474・517076 中村

10種類覚えると、

勲章が二つ

とらえるんだと、彼らは言うんです。

この日(11月12日)のボーイスカウト、かなり熱心に観察するんです。今までにも、学校や子供会関係など、何十となくいろんな子供達の団体に説明して来たが、この日のボーイスカウトは特別だった。

私産も、自分の子供の頃を思い巡らすと、さもありなんと思わざるを得ない。説明に当たってくれた長塚さん、「今日のグルー

鳥の絵の看板を持ち出して話しをする長塚さん。(船橋の団員・デンマサー・カブ会員 9名)



日常生活の中から

そのまよまに

カモメおばさん、それは、中村容子さんのことである。干潟のそばの秋津田地に住んでいて、去年と毎日ユリカモメにパンのミミシを投げ続けて来た。雨の日も風の日も雪の日も、冷たい北風の吹きすさぶ日も……。

ユリカモメが帰る来年の春まで、一主婦がすることの並大抵でないことこのこのナマの記録、「カモメおばさんの記」を連載していきたいと思う。台所の匂いをもそのままに、雑多なる育児・家事に追われた生活の中から。

「ああ、そう一時半だわあ、さあ早く行かなくっちゃ。カモメがあたしを待ってるかと思うと、そう、気がきじゃないわあし。こんな言葉を今まで、何回も聞いてきた。きっと、カモメおばさんは、毎日の生活の中で、毎日しているパン投げを、そんな心境や思いでやっていっただけでしょう。」

カモメおばさん、今、「ユリカモメ日記」をつけ始めました。野鳥、干潟、人間、天候と、それぞれがどのが相互に関係し合ってくり広げてゆくパン投げ。

去年とそうでしたが、一日として同じ日はありませんでした。その為の中村さん、野鳥の識別能力は正に、日進月歩。

彼らボーイスカウトは、来春、温かい季節に来て、干潟の中でドロだらけになってカニをつかまえたいたいという。

ゴミ地獄から谷津干潟を
生き返らせた男の
たった一人の闘い



千葉県
森田三郎さん

撮影/出版写真部・平嶋 彰彦



尚、サンデー毎日からは、右の写真をも
始め、記録として八枚頂きました。

「サンデー毎日 1984年11月18日号」

孤独な闘いのうちに、少しずつ
協力者が現れてきた。有志のク
リーン作戦も展開され、当局も
協力的になった。
「疲れてやる気がなくても、とに
かく体だけは干潟にもついでいこう
と自分に言い聞かせてやってきた。
ゴミを集めて運ぶルートも出来た

「これからは、立ちションも出来
なくなっちゃうね」
頭から尾籠な話で恐縮だが、森
田三郎さん(39)は、人なつっこ
い顔を、本当に困ったように崩す
のである。

千葉県の谷津干潟愛護研究会の
会長。彼のこれまでの活動ぶりが、
教科書、それも県内の小学校6年
用の道徳の副読本で紹介されると
いうのである。実際に載るとい
うかの最終的な結論はまだ出てい
ないが、何が起るか、いや何を
起こすか、将来のことは全く未知
な生身の人間。死んだ人間なら
もかく、一寸先は闇の生きている
人間にとつて森田さんならずとも
道徳の教科書だけは、ご勘弁を
と言いたくならうというもの。
前置きが長くなったが、教科書
に載せたくなるほど、森田さんの
やってきたこと、そしてこれから
も続けるであろうことは、それじ
よそこらの生身の人間では、出来
ないことだ。

腰までズブズブ沈み込む、臭い
泥にまみれてのゴミ拾い。誰もが
顔をそむけるきたない。仕事を
森田さんは10年にわたって、黙々
と一人でやってきた。

昭和49年、森田さんは小さい頃
の遊び場だった谷津干潟を久々に
訪れて、愕然とした。野菜クズ、
建材、毛布、冷蔵庫、オートバイ
と、ありとあらゆるゴミが干潟を
覆っていた。ブーンと鼻をつく臭
気。貝やカニ、カメやウナギそし
てトビ魚に野鳥と子供の時は自然
の宝庫だった干潟は、今や見る影
もなく、死の干潟と化していた。
ハゼはどうした。カニはどこへい
った。そして、楽しかった子供の
ころの思い出はどこへいった。

「生き物がかわいそうだ」
森田さんの一日も欠けること
ない闘争が、その時から始まった。
新聞販売店に勤めていた森田さん
は、朝刊と夕刊配達間の空いた
時間をすべてゴミ拾いに費やした。
広さ45ヘクタールの広大な干潟。
拾っても拾っても足りなかった。
潮が毎日、ゴミを運んでくる。拾
っているすぐ横で、近くに住んで
いる人が、ボンボン、ゴミを捨て
ていく。注意すれば「お宅はこの
市の人ではないでしょ。言う権利
はないでしょ」と、逆に文句を言
われる始末だった。

護岸に集めたゴミも、誰も持っ
ていってくれなかった。市、県、
国とも、縄張り根性から、知らぬ
存せぬを決め込んだ。思い余って、
ゴミの山に火をつけ、火事と見間
違えて消防車が駆けつけたことも
あった。

し、これからは闘いながらやるこ
ともなくなるでしょう」
臭気もなくなり、昔のように、
とまではいかないまでも、カニが
ハサミを振るなど生物も帰ってき

た。干潟を見ながら、森田さんは
遠くを見る目つきになるのである。

私達は、谷津干潟を、世代サイクルで考え、取り組みたいとする。森田は、生涯我が身としていきたらう。

カモメおばさんの記 ②

ふかんど

第311号

1984.11.20

谷津干潟愛護研究会

〒275 習志野市谷津三ツ七 鶴荘E号
電話〇四七四一五一一五〇四四
文責・森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局 0474-517076 中村容子

ふるさとづくり・地域の風物誌に

昨シーズン、ユリカモメが干潟から姿を消したのが4月13日。そして半年後の10月15日に、6羽来ていたとの情報を機にまた餌付けを開始しました。最初はその6羽がどこにいるのかオシシわからず、まだたくさん居残っていたウミネコも食べるのかしら、と思いつつ再開でしたが、私達の予想に反して、何とウミネコが、その顔に似合わない人なつこさでミヤオシヤオと寄って来たのです。そしてそのパンをついはむ姿のダイナミックなこと!! これまで私の見慣れたユリカモメの優しい姿を女性的とすれば、ウミネコのそれは、男性的とでもいうのでしょうか。ウミネコにつられるように、カモメがパンを食べ始めるのに三日とはかかりませんでした。昨シーズンはあれ程警戒していたカモメがこんなに簡単に食べ始めるとは、これまた予想外のことです。嬉しい誤算にあればと鳥達の心中に思いを巡らしながら、干潟通いが始まったのです。



ひとりでは、パンが口に合わない。それは、ユリカモメとカモメが、あつと言う間に食べてしまうから。ハトどやってくるのです。

こんなにいっぱいいて、いろんな性質のものがいる。ノロマ、カッパライ、スバシツコイヤツ、ウルサイヤツ、ズウズウシヤツ。



パンを投げる時間は、毎日午後一時半頃～二時半頃。津田沼高校のそば

講演会の感想文を頂きました

先着 TEL (54) 6788 行
59. 10. 31. 発行

59年度 保育の会ニュース 第3号

講演会を終って

十月十四日(日)午後一時半から、森田三郎さんの講演会を行い、多数の方に参加していただきました。参加者の方の中には、何人かには感想文を書きいただいた方もありました。

神戸浦三丁目長岡史子

私が谷津干潟を知ったのはある新聞の干潟クリーン作戦で、近くの主婦が子供達に干潟に捨てられたゴミを拾っているという様子が書かれた文章だったと記憶します。

その後幼稚園から、園児に谷津干潟は危険だから近づかない様にという通達を受け、これは一度子供達に危険な干潟を見せようかと思われ、干潟へ行きました。

遠目には見てたのですが、実際足を踏み入れたとたん「わぁー原っぱがある！」「干潟クリーン作戦ってなに？」「掃除や、あちはどうやってんの？」とちやほやと汚れてしまふへん、大きな気持で干潟に近づいてくるものがありました。

それから数ヶ月、県立公園になんていなりました。

取りつかない昔の原っぱが、整然と芝生に生まれ、入っては行けませんし、ゴミをばらまかせませんという不安が、顔になるのかなという不安です。

そんな私が、森田三郎さんの話を聞いて、人間の意地というものを身体に感じました。

又、世の中取りすました人間らしさを感じない人間の多い中、又、長ものに巻かれろ、式々の中、頑固な生き方、方ってより人間らしく思えました。

頑固人間ばいばい！
意地張はんばい！

（なみに私とは違いますと、相当かんにいなるかな？）

森田三郎さんの勇気ある行動に頭の下る思いです。

クリーン作戦ですら参加できないお母さん、せめてゴミを出さない様にします事は出来ません。



又、世の中取りすました人間らしさを感じない人間の多い中、又、長ものに巻かれろ、式々の中、頑固な生き方、方ってより人間らしく思えました。

頑固人間ばいばい！
意地張はんばい！

（なみに私とは違いますと、相当かんにいなるかな？）

森田三郎さんの勇気ある行動に頭の下る思いです。

クリーン作戦ですら参加できないお母さん、せめてゴミを出さない様にします事は出来ません。

わり組 遠藤洋子
私は高層住宅の最上階に住んでおります。毎日干潟を朝夕に眺めて暮らしております。

ここに移り住んだ時から、折に折に干潟に行っておりますが、本場に最初の年より今は、ゴミが減り、きれいになったと、もうで、野鳥もたくさん遊んでいます。

きれいにするまでの、森田三郎さんのお話を聞き、大変な努力、忍耐と根気を知り、感心させられた。なお感謝の気持ちか、自然と湧きあがりました。(近くに住む者と)

干潟を眺め、今、自分にできることは何かと問い、「ふるさと」を取り戻すこと、と気持ち、それ一人、立ち向かい、99%駄目でも、残り1%にかけてやってみようとおもい、一人で活動し、今日まで、こつこつとやっています。

そのお陰で、私は今、毎朝夕、素晴らしい眺望を満喫しています。

谷津干潟クリーン作戦を定期的に実行すること、で、出来る限り、お達のふるさと作りに参加し、自然とこの手を守りたいと思っております。

何か子育てに通じることあり、考えさせられる時を過ぎました。

すみれ 早川芳子

森田三郎氏の講演会に出席して保育の会の方から「森田さんは干潟清掃活動に生きてこられたと、とても純粋で、すばらしい方だから」と聞いて、一休さんな人だろうと、講演会に出席してみました。

ところが、お話を聞いている内に、とても親近感が湧いてきました。干潟の為にあって、人の道にはずれる様な事も、目をふり、干潟をこよひに保ちたいという思い。その辺りで、カッコ良く、正義の味方をこよひに建前だけを論じている人よりも、どうも勇気のある純粋な人という言葉を、かびつたりの人だと思いました。

それから、お全くの世の中で、毎日の生活費はどうしているのだろうかとか、結婚しなうで将来に不安はないのかしらという事が、凡人である私としては、これも気になうていた事でした。でも、何度もお話を聞かされて、事や、御両親の心配などをお聞きして、挫折感のない神様のような人だと思えたもので、本当に心を打たれました。そして、いろいろ苦勞を、それどころか、思い通りに進まない、断絶感に打ち勝つ為に、その時々の可能性

と、とて考えられる事だけと、前向きに見てやる行こうと言う、ホリホリ心境に、毎日現実的な生活に追われている私としては、一番感激し、森田氏の真の人間性を感した所でもありません。

その段々話が進むにつれて、一人の人間の一つの事を母身を通ず、信念がどんなにすごい力を振りまいて、かと言ふ事が、物語の世界ではなくとも、身近かな事として感じさせられました。

ともすれば現代の風潮に、すぐかり流されようになるお母さん、森田三郎氏を見習いなから、森田三郎氏の信念を、祈り、生かす、行きたくな、あとも感じました。

ほう組 泉誠子



干潟で三度おみかけしたこともあり、親と感得して講演会へ行ったら、静かにおみやげをくださった森田三郎さんに、お話を聞いて、涙があふれて来る。それは、十年もの長い間、一人でふんどうに打ち込んできた情熱と愛。それと、真加、そこにあったからである。幼い頃の思い出、子供心に本心にせうなく、苦しむ体験を聞き、私にはなかったと感じた。

その体験を通して、得心が、森田三郎の今と作っていること、私には、色々な困難、障害を乗り越えてきた彼を支えた信念は、ふんどうに何か出来るではないか、自分か、ふんどうにうだった何をして欲しいか、た、それを聞き、今、親として子育てにどう関わっているかは、子供に何を、何か出来るだろうか、と、考えさせられて、

都合で一時、聞けず、残念でした。

感想をお寄せ下さった方、ありがとうございました。

ふかんど

№312号

1984.12.27

谷津干潟愛護研究会
 〒276 習志野市谷津字七七 鶴荘E号
 電話〇四七四一五二一五〇四四
 文責・森田三郎

会費年2000

創立
1974.12.6

事務局 0474・51・7076 中村容子

ドジョウすくいや
メダカすくいそっくりだ

10月のある日曜日夕方近く。潮は満潮時で岸まで水がいっぱい。

埋め立て地を車で見まわってきた五十嵐さんと長塚さんが干潟のワラシぎ着いた。干潟をのぞいた長塚さんが五十嵐風さんに、「五十嵐風さん、ちょっと玉アミ借してよ」と言った。そして水の中にざぶく〜と入ってワラシぎを出したのだ。ゴミを。余りにも小さくて拾いよつたのなかった。無数の、プラスチック類のゴミを、楽々と拾う、舌、すくっているのだった。

「血豆」ができたらやった

「だって、ほら、毎日く〜とってたくさんパンのミミを包丁で切り刻むでしょう。パンで、案外力が入るのよねえ。そんな日にちがたったものはとくにぬ〜〜」と、中村さんはバンドエイドだらけの自分の指を見ながら言った。

パンのミミ、10キロはある。全部切るのに30し40分かかるといふ。手で千切つて少しも、食べるのに差しつかえはないのに、食べやすくしてやりたりからと。

きつと、幼い頃を思い出しながらやっているのかと。玉アミとバケツを使ってゴミをすくう五十嵐さんと長塚さん。

包丁を研ぎく〜

男の私にはわからなかったが、パンのミミの所って、案外固いという。彼女が言うには、包丁の切れ味が悪くなるのが早いと。パンといえば、まずやわらかいと思いきや、「パンのミミの所、ほら、一番よく焼けてるわけでしょう。だから固いのよ。そこをこれだけワラシぎ切ってるんだから、包丁がたまんないの」と。

そんなある日、お茶を飲み立ち寄ったら、中村さん、クシヤツ〜〜と音を立てて包丁を研いでいた。その豆だらけの手で〜。



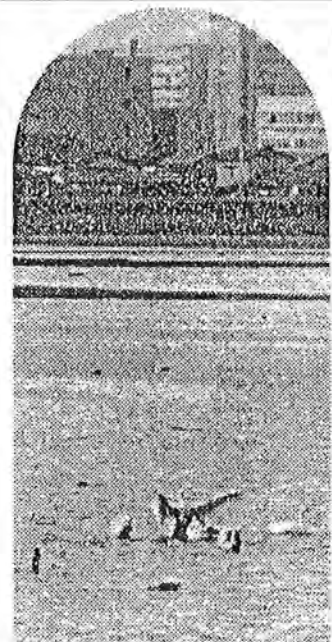
この種のゴミは、全国の河川、海岸、湖沼でも問題になっていると思う。谷津ではこの先、常にやっていきたい。

皆さん知らないうちで、パン投げにまづわりのく〜な事を。今後に御期待。



干潟で羽を休めるコハクチョウ

谷津干潟にハク
 チョウ五羽飛来
 習志野市の谷津干潟に十四
 日、ハクチョウ五羽が飛来し
 た。干潟の清掃活動を続けて
 いる谷津干潟愛護研究会の中
 村啓子さんが同日午後三時ご
 ろみつけたもので、同愛護会
 の森田三郎会長の話では「四
 年前に一羽来て、三日間滞在
 して以来」という。
 ハクチョウは、真っ白い成
 鳥二羽と灰褐色の幼鳥三羽



東京湾にハクチョウの一家

東京湾の一番奥にある野鳥の
 楽園、習志野市の谷津干潟に十
 四日、ハクチョウ五羽が飛来し
 ました。純白の羽毛の成鳥二羽、
 薄茶色の幼鳥三羽が三
 羽、薄い茶色の幼鳥が三
 羽、同日夕方には五羽ともど
 こかへ飛び去った
 が、日本野鳥の
 会本部による
 クシイ運転手森田三郎さん(左)
 と、迷いハクチ
 ヨウが東京周辺
 に現れることは
 年に何度かある
 が、一度に五羽
 も姿を見せるこ
 とは珍しい。今
 年は、寒波が遅かったためか冬
 鳥の飛来が遅れており、茨城県
 以南へハクチョウが来たのは初
 めてという。

↑ 毎日新聞 11月15日
 朝日新聞 11月15日 →

所は、津田沼高校がわのくずかご。これは三年
 前、県企業と当会が話し合いの結果設置して
 きたものだ。ところが、下の女子直入のようにふとん
 が捨てられていた。どうせ、さって行くんだからつい
 でにと、そんなつとりなのだろう。でど、よくある事。
 捨て犬、捨て猫、家財道具、廃材、その他いろいろ。
 ……あぁ、やんなっちゃうよ…！



先日の新聞記事。市川市のある人が、
 長年学校関係の奉仕活動して来て、そ
 の為子供向けの本のモデルになった。
 それを祝って、関係者がその人を囲ん
 で会を持つとのことが出ていた。
 ……ところが、森田はその記事を詭みなが
 ら、思わず、何の気なしに口から出てし
 まったのである、「……いいなあこの
 人はあ、みんなからこうしてとらってな
 あ。……楽しいだろうなあ」と。とっ

ととそれには、この人と違って森田のように、
 “いやだと言う相手がいないかったという事情
 を考えていた。
 しかしそれはそれとして、森田の言葉がそば
 にいた会員の耳に入ってしまったのである。そ
 の会員の人は何を考え、誰に相談したのか知ら
 ないが、計画されてきた忘年会に付け加え、か
 つ改めてしまったのだ、「森田三郎を囲む会」
 と。うっかり言ったばかりに。「とりとせ、ぼ
 くらたちの海」の作者岡本文良さん、さし絵の高
 田勲さん、そして森田の「おふる」も参加。

場所「日の出食堂」(谷津商店街内)

12月2日(日) 午後4時〜7時。

森繁久弥さんは参加できませんが、「小さな実行は、大きな計画に勝る」とのお言葉を頂きました。

ふかんど

ネ313号

1984.12.2

事務局 0474-517076 中村容子
 谷津干潟愛護研究会
 〒25 習志野市谷津字七七 鶴荘E号
 電話 0474-515150 四四
 文責 森田三郎

会費 年2000

創立 1974.12.6

形見のどのなんですが、
 忘れようと思っただけ...

12月2日。中村さんはすでに、干潟に来て、パンを投げた。今日刻んだパンを測ったが、10kgあったという。森田は乗務の日で、密の都合で遅くなった為、先に来ていた中村の姿を見てタクシーを走らせていった。

その時、中村さんの所から少し手前で、男の人がポイントと紙袋を干潟の中へ投げたのが目に入った。中村さんにひと声かけて、その人の方へ歩き、潮に流れる紙袋、向産いなり、ゴミ袋を見た。件の人は、両手を柵においてじっと紙袋を見つめたままだった。身動きさせず。

「すみませんが、ゴミを捨てないので下さい。みんな拾ってさるのですから」と、森田は言った。その人、軽く頭を下げながら、「申し分ありません、……ただ、実は、あははゴミではないんです。思ひ出の、形見のどのなんです。

「今日、ごちよこも流して、忘れようと思ひまして……」と言った。その顔は、意志のそとではなく、認識のそとであった。

髪の毛に
 パン粉をつけてにこにこ
 カモメのおばさん
 子らが呼ぶ
 そばで、中村さんの声
 と鳥の群れ合つ声か、い
 ときわよく聞えるのだった。

授業に 干潟のイラストが

習志野市の谷津小学校教諭、大道和幸氏より、干潟の想ひ出のイラストを授業で使いたいとの話がありました。昔の東京湾、とくに習志野市の海のこゝろのこと。みんなで色鉛筆でぬったりするそうです。

森田の子供時代を 生徒に話します

大道先生より、学校の授業に来て、今の生徒達に話して欲しいとのこと。喜んで引き受けました。

習志野市が主体に

谷津干潟のサンクチュアリ事業

公曹防止事業団が、わが国初の自然干潟サンクチュアリ(野鳥の聖域)として六十二年までの四年計画で整備する方針を打ち出したものの、事業主体が決まらず宙に浮いていた習志野市の谷津干潟環境整備計画について、同市は事業主体となることを決め、二十七日開いた市議会全員協議会に報告した。干潟を中心に、同市の船橋市境から千葉市境までの帯状の地域を、緩衝地として整備、干潟の野鳥保護と市民のスポーツ施設の確保を図ろうというもので、四年間の総事業費は百四十八億円。完成後は都市公園として習志野市が管理することになる。

習志野市の負担 金は大幅に減る

谷津三丁目団地

習志野市の京成谷津遊園跡地に建設が予定されている住宅・都市整備公団の「谷津三丁目団地」(仮称)で、同市の財政負担は実質で四億九千五百万円にとどまることになった。同日までに合意した市と公団の事前協議結果をもとに算出したもので、五十六年の公団(当時

は日本住宅公団)案をもとに、同市が推定した約三十億円を大幅に下回っており、同市は全面的に受け入れる考えで年内にも公団との間で費用負担協定を締結する方針だ。合意した事前協議によると、敷地面積は二〇・三ヘクタール、戸数は四十四階建ての中、高層団地三十五棟で二千三百戸。うち賃貸千四百戸、分譲が九百戸となっている。敷地内には、四つの都市公園がつくられ、その中には谷津遊園時代に全国的に知られたバラ園がほぼそのままの形で残される。六十年二月から着工、六十六年度中に完成、入居が完了するという。

学校では今、「郷土の歴史」という授業があり、その一環です。

バラ園は存続へ

習志野市と地元負担も大幅減 公園が合意

谷津遊園地開発

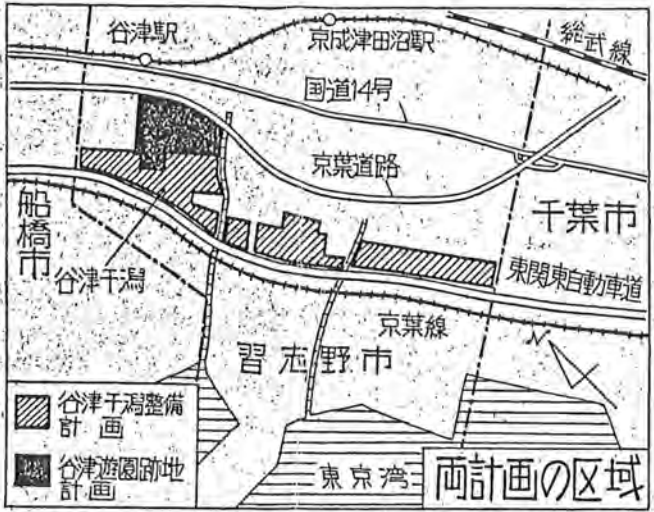
習志野市は同市谷津にある二七七日、協議が終わり合意。七年計画で中高層住宅千二百戸に抑える」という内容が成立したことを明らかにした。バラ園は、三〇〇戸を建設する。バラ園は、ほぼ現状通り保存し、習志野市が開発計画は、一六〇二年、市の開発負担金は四億九千五百

経営再建のため手放した。住宅・都市整備公団が団地の建設を計画したが、地元負担が多過ぎるなどの理由で市が公団の開発に同意せず、民間アベロツパが開発業者として名乗りをあげた。しかし、民間業者もバラ園などの存続には難色を示して開発をあきらめ、再び公団が名乗りをあげてきた。合意した開発計画書は、千三〇〇の用地に四階から十四階建ての住宅三千五百棟二千三百戸を建てる。計画人口は八千五百人。団地の西側に四軒の公園を設け、バラ園を保存する。団地内に小学校と保育園を二校ずつ建設するなどという内容。当初、三十億円といわれた市の開発負担金は大幅に削られ、公園の用地費三億四千五百万円、小学校と保育園の建設費八億三千七百万円、雨水放水路の建設費一億五千八百

公園譲歩で合意

住宅建設は二千二百戸 公園と緑地四〇％を確保

谷津遊園地開発



首都圏に残った数少ない大型宅地開発計画として注目を集めていた習志野市の谷津遊園地開発について、同市と住宅・都市整備公団の間で最終的な合意が成立し、市は二十七日開かれた同市議会議員協議会に報告した。懸案だった公園・緑地面積は、公園がこの春提示したのほぼ同じ四割で決着したが、公共用地などへの市の負担金も減るなど、公団側が譲歩した内容になった。協議会では、基本構想が固まった公害防止事業団の谷津干潟整備計画も報告された。

「面積が少ない」と批判のあった公園・緑地は、ほぼ当初案通りの広さで団地西側に四軒を確保、谷津遊園時代の名物「バラ園」もその中に存続させることになった。また公園を緊急避難場所指定し、団地内の九本の道路で、近隣団地からの利用・避難が可能になる配慮をした。

公園造成費について公団は当初、市に七億八千万円の負担を求めたが、最終的に三億四千五百万円に合意した。これは公団から市に払われる開発負担金で相殺される。下水道についても、公団は当初、自前の設備を造る計画だったが、これを市に浄化センターにまかせる代わりに、建設費に見合五億円を「受益者負担金」として市に拠出することになった。

開発に伴う市の負担は、これらを含めて総額十三億四千四百円、公団が市に払う負担金などを差し引くと、四億九千五百万円。当初計画に比べ約九億円分、市の支出が軽減されたことになる。

公害防止事業団が百四十八億円かけて五十九・六二年度の四年間で行うもので、野鳥の楽園「谷津干潟」を国設鳥獣保護区とし、干潟につながる東関東自動車道沿いのベルト地帯をスロースペースのある緑地帯にする。地元の負担金が百億円にもなることから、県立公園とするが市立公園とするか協議していた。地元の負担金の半額を県企業が負担し、市立公園にする」と合意した。

東京新聞 1984.11.28

市が事業主体に

習志野市 谷津干潟周辺四カ年で整備

公害防止事業団が計画している習志野市の谷津干潟を含む「谷津干潟周辺整備計画」について習志野市当局は二十七日「国や県の財政的な協力が得られた」として市が事業主体になり、公害防止事業団に委託し四年間で整備することを明らかにした。

公団が開発の名乗りをあげた「バラ園存続、開発に伴う市の負担は応じられない」との市の態度に開発を断念、五十八年一月民間三社が売買交渉に入ったが今年三月白紙に戻り、五月末再び公団が売買契約を結び市と事前協議を行っていた。

中高層住宅へ

市と公団 年内にも負担協定

谷津遊園跡地

習志野市の京成谷津遊園跡地を開発する住宅・都市整備公団と習志野市の間で進められていた事前協議が二十七日までに合意に達し、年内にも負担協定が公団と市の間で結ばれることになった。焦点となっていたバラ園はほぼ現状通りに残り、住宅開発に伴う市の負担は約五億円で軽減された。五十六年四月に京成電鉄が売却を決めて以来、二転三転した同遊園跡地は公団の手でバラ園に隣接した中・高層住宅に生まれかわる。

合意に達した建設計画概要によると、開発面積は一〇・三〇ヘクタールに四十四階建て

市負担、大幅に軽減

谷津遊園 実質四億九千万に

習志野市の谷津遊園跡地の利用計画で、懸案だった市の負担金問題が、住宅・都市整備公団との事前協議の結果、合意に達し、二十七日、市が計画概要を発表された。

それによると、当初、公団側が主張していた公園用地の造成費約十六億円の市の負担



習志野市が事業主体に

谷津干潟の緩衝緑地

公害防止事業団が、習志野市の谷津干潟に計画している緩衝緑地建設で、同市は二十七日、国や県の協力体制が得られたとして、市が事業主体になることを明らかにした。

この緑地は、総面積が六十三・六〇ヘクタールで、うち谷津干潟四十二・二〇ヘクタールを設ける。船橋、千葉の両市境から海岸道路（国道三五七号線）沿いに、幅百メートルに造られ、干潟は、国設鳥獣保護区に予定され、野鳥の楽園になる。

ふかんど

第314号

1984.12.15

谷津干潟愛護研究会
〒270 習志野市谷津字七七 鶴荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田 三郎

会費 年2000

創立
1974.12.6

事務局 0474-517076 中村容子

ストーブを買う

部屋に帰るのが

楽しく

電気です。ステイムと出る。ノオン
今まで、寒い時は部屋の中で体操をし
ていた。産まれて初めて、暖房器具を
買った。うれしい。どうして今まで
買わなかったんだろう、高くもないの
に。今、あったか味を体を感じなが
ら、そう思っている。そして、これを書
いている。
奥家からとらったコタツはある。母

が新調配産をしている時、家で初めて買った
23年前のやつ。でも板がなく、脚はチンパで
かたく。うち一本は偽足。部屋に帰ると
冷えくとしていて、吐く息が白かった。
あたりながら、今までの生活、中学を出てか
らのこと、特に、あの「小かんど」、谷津
干潟の保護に取りくんできた10年宙のことを
思った。森田は、干潟に関係する以外のものに
は、ケチだった。人からと、そう言われた。
これから、茶わんや洋服ダンスを買う、ガス
を入れたい。少しずつ、身の回りを整えていき
たいと思っている。

買うことをすすめてくれた〇〇さん、ありがとう。

カモメおばさんの記 ⑤

石じゃないよ、パンだよ

かわいそうに、このカモヤカモメ産、
パンを投げるたびに、すいーっと逃げ
るふりをするので。

そうだろうそうだろう、今までの
ことを想えば無理もないよ。きつと
どう、体にしみついて習慣になっ
てしまっているんだよ。

これまでに、さんさん、石やビンヤ
缶を投げられてきたんだから。

しょうがないよ、今ここで急に、ある
いは一二年でそうでなくなわって言
ってさあー。
で、でもね、それはとってまゆこく

りだったけど、少しずつ、だんく
と逃げなくなってきた、今は大分そうでは
なくなっているんですよ。とくにカモは、体
にパンがぶつかると、パクパク食べている。
それと、ギャーギャー、ビョービョー、辺り一面

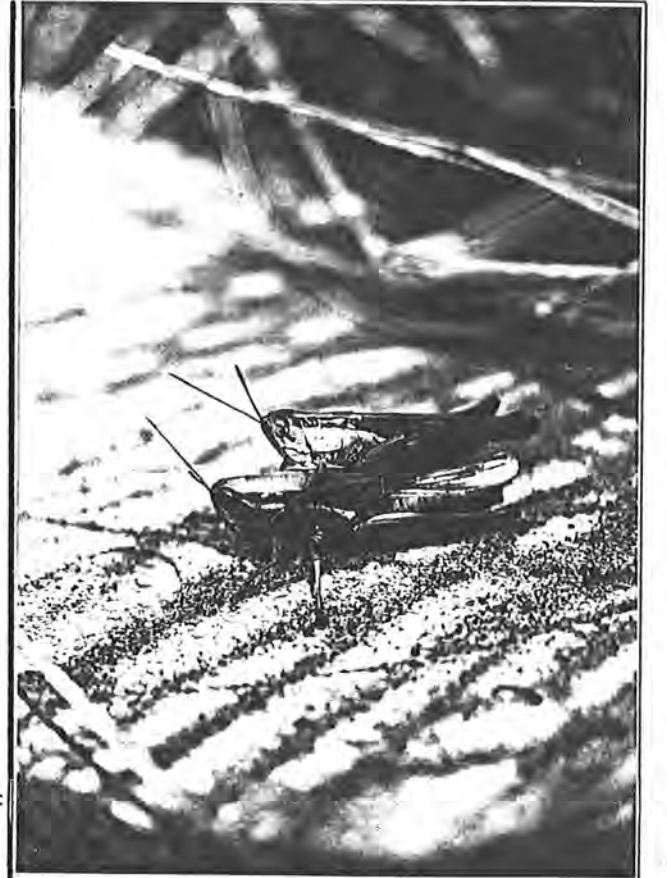
水音と波を立てて。
パンは、小さく千
切ってやった方が驚
かない。食パンをそ
のまま形で投げると、
あつみなびっくりし
ている。

将来は桜橋を作っ
て、鳥と同じ高さの
所からやりたい。

パン投げは、社会的にも生態学的にもいっような意味で試行錯誤。



← 12月5日



「とりとどせ、ぼく達の海」
「ハンカチ形の海の思ひ出し」

去る六月、森田三郎の母校、船橋市立
宮本小学校にこの二冊を贈りました。

二十七年振りに見る母校に、昔の面影
は全く、何ひとつとて無かった。木や草
は、砂地は消え、代りに、コンクリー
トとゴミが多いのには驚いた。

秋津の 子供たちへ



用務
久保道典さん

みんな、秋津には確かに
大きな登れる木もなく、魚
のいるきれいな川もなく、
虫のいっぱいいる林もない。
でも、そんなことはあま
り気にしなくてもいい。君
達はこのような秋津で生活
しているが、君達の体の中
には人間としてあたり前の
欲求が息づいている。その
求める心が死なない限り、
君達は常に生きていくんだ。
人間も動物も飢えたとき、
食物の大切さを知る。植物
だってそうだ。水の少ない

ところの草木は地面に深く
根をおろす。砂浜のハマボ
ウフウというやつは、地上
の10倍も地下に根を伸ばす
んだ。
登る木がほしけりや、と
びはねる魚をつかまえたけ
りや、秋津にないものが欲
しければ、待っているんじ
やなく、自分達でさがしに
行こう。

そして、秋津小に足りな
いものを作っていくうじや
ないか。自分達の足あとが
残るような学校生活をしよ
うじゃないか。心の中で、
やったあ／＼と思えることを
やろう。これから、それを
一緒に考えよう。

秋津に残された自然、谷
津干潟を守り育てている森
田さんのような人がおられ
ることをみんなも知ってい
て欲しい。

ありがとう、久保さん。見ていてくれて。

自然緑地にひっそりと

イナゴである。11月の終りの頃、天気
は素晴くよかったが、風がとてと冷た
い日。流木のベンチのそばの、日当りの
よい所で。今頃は命を尽き果て、土
と化しているかとも知れない彼ら。

学校の宿題なんだって

近くの中学校の女生徒です。名前を聞
いたら、「はずかしいノ」ってさ。干潟
の生物標本を見てノートに書いていた。



久保道典さんのこと

私は、この久保さんという人に好感を抱
いている。真冬で短パンとランニングで校
舎内を、テキパキを何かをやりながら歩い
ている。

体は小柄、年は私と同じ位だろつ。気軽
でさっぱりとした感じを予えるが、当人意識
せずだろつ、人や物事の真をつかむ。

余り会う時はなりが、昨年の雪の日、大
通りに面した校門の前で裸で、生徒産にと
りまかへて雪かきをしていたのが印象的だ。

今年とよろしく御願ひ申し上げます。



左から、五十嵐さん、中村さん、ニ上さん。風さえなければ、干潟はほんとうに気持ちの良い所です。

♪ きよしこの夜、星はひかり
すくいのみ子は
みゆのむねに
ゆもりたもう ゆめやすく

去年と、ずいぶんいろいろな作業を、活動を展開して参りました。
で、みんな、けがをしなくて、ほんとうによかったですね。今年と、誰一人としてけがをしないようにと、常に願わずにはいられません。代表としての森田は、御守りや、安全祈願ということ、身にしみており、今年とこの先の日々、心細い、ワラをつかみたり思ひです。

門松ならぬ
“ 潟松 ” を添えて

ふかんど

オ315号

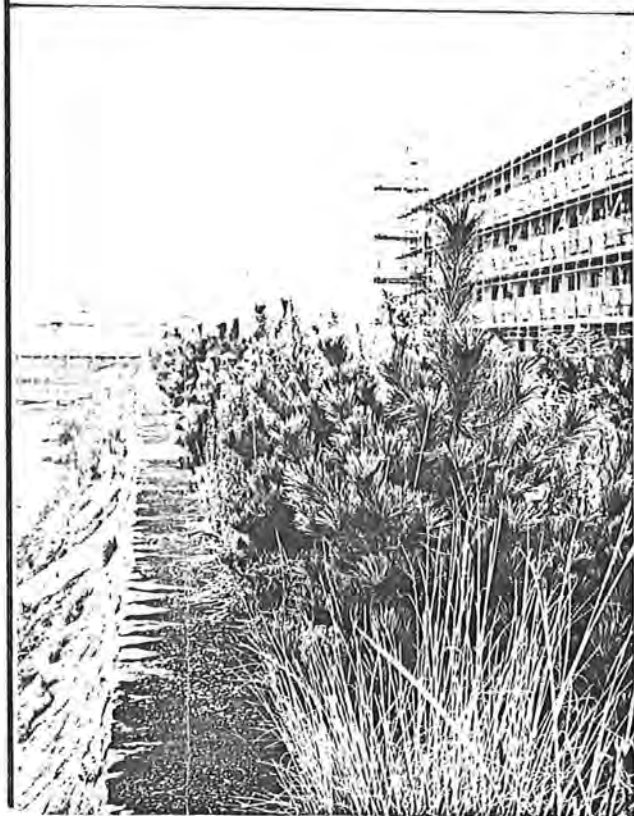
1985.1.10

谷津干潟愛護研究会
〒270 習志野市谷津三十七番五号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田三郎

会費年2000

創立 1974.12.9

事務局 0474-517076 中村



写真の松は、「向山遊歩道」の船橋寄りにある。昭和52年5月に100本植え、あるものは盗られ、折られ、又枯れたりして、今約50本残っている。やがて来る春を待ちつつ、霜を浴びる毎日である。この松を新年の挨拶とし、私達の「御守り」としたい。

そのようにして、私達はド声と張り上げてケーキを、あたかも、エオがスコップで山を崩すが如く、晴れ渡った谷津干潟で食べました。去年の、12月24日のことでした。
私に、その心の地平線を押し広げた聖書。人間という、危険とロマンに満ちた広大な暗黒大陸の、その行く手に燈をとしたナザレトのイエスの誕生を祝いました。
とまあ、本来はそうあるべきですが、奥はこのケーキ（ニッ）、毎日パンのミミをどらっているパン屋さんなら、付き合ひでしようがなくて買ったのであります。

干潟の負える十字架を軽くしてやろう！

この松に、会員一人一人の名を記して将来に残したい。

なにかと、差し入れを

「ねえ、あんた、ねえ、ちよっと待っててよ。今、あんたにやろうと思ってたもん、持ってくんからぬ」と、いろんなどのを差し入れしてくれるのだ。

このおばさんは、森田のアパートの向いにお住まりの滝沢さん。息子さんは医師になって家にはいない。退屈なさったご主人と二人で静かな日々を送っている。滝沢さんは、私一人者の為に何かと

君たちい、頼むよお

子供たちにとっては、森田よりカモメおばさんの方がはるかにとっつきやすいらしい。とくに女の子はそうである。

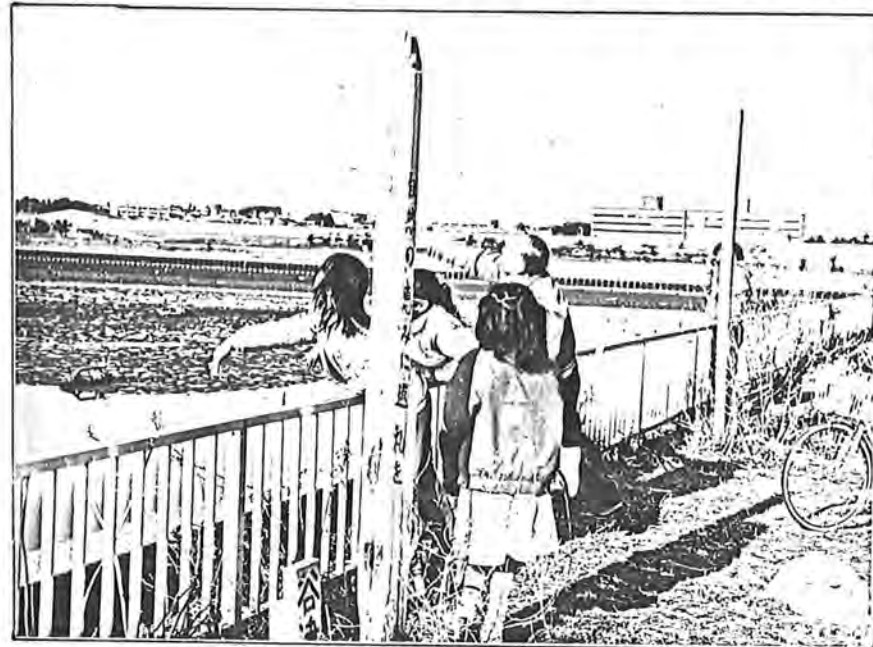
滝智恵ちゃん、浅井早苗ちゃん、小林純子ちゃん、そして滝ちゃんのお父さんがいる。お父さんは、干潟のすぐ近くでスポーツ用品店を経営している。



不自由であろうと、常々気を使ってくれているのである。ヤキトリ、スイカ、赤飯、果物……。今度うちで、こんなさん作ったカクレなどと。町会や近所付き合りの足らないのを助けてくれる。

私達は、ゆくゆくはこのパン投げ、主婦や子供の小学校などが野外活動や教育をかねてやってくれればいいのと考えている。

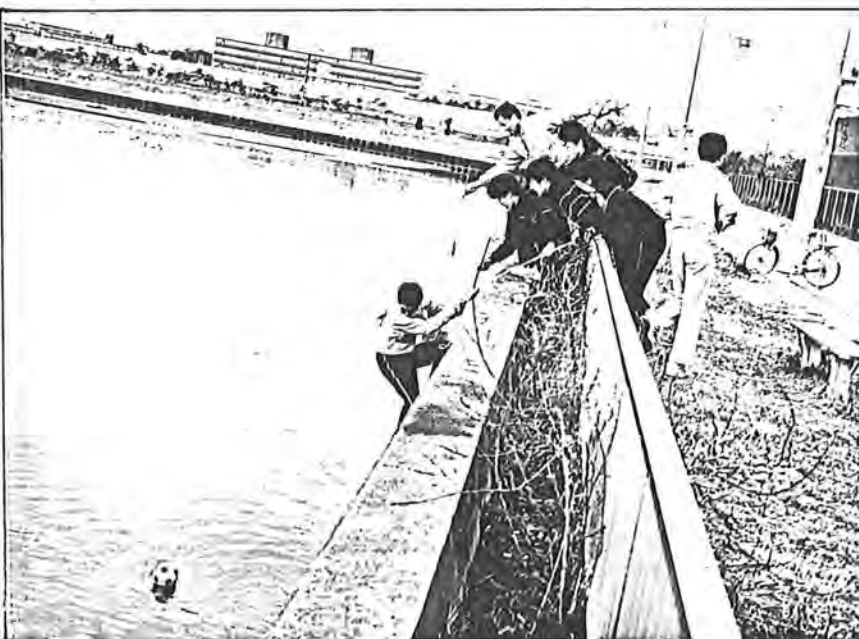
さて、左の写真。奥は高校生が干潟に入っただサッカークラブを取ろうとしてるところ。ロープをつたって、何とかとろうとしているのです。なに、落ちたって溺れる心配はない。ちよっと冷たいだけ、せいぜいがんばりなさい。



パン投げというさ細なきっかけでも、少しずつ鳥の見分けが出来ていくのです。

時々、森田が捨てやるが、いつもでは付き合えない。ロープ位は貸してやるよ。

撮影・中村容子さん



↑ この他、野球やテニスボールもよく干潟に落ちる。そのため鳥はびっくり。津田高は、フェンスを高くする計画です。

ふかんど

オ316号

1985.1.20

谷津干潟愛護研究会
〒276 習志野市谷津三十七 鷗荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田 三郎

会費年2000
創立 1974.12.9

事務局 0474・517076 中村容子

「ある人物像」 原稿用紙 五十枚

明星大学人文学部社会学科四年

粥川直哉

序章

第一章「南発と埋め立て」

一節「故郷変貌」、二節

「人面森田三郎」、三節「埋め

立て決行」、四節「一人だけの

清掃」

第二章「森田三郎氏の履歴書」

一節「海に育てられて」、二節

「自己確認」

第三章「干潟への愛着」

一節「怒りと反発と実行」、二節「自

己の存在感の確認」、三節「野鳥の繁

殖調査」

第四章「谷津干潟愛護研究会」

一節「クリーン作戦」

第五章「信念」

一節「信念」、二節「行動と評価」、

三節「南発の利害損得」

第六章「魅力ある人たち」

一節「佐江象一の魅力」、二節

「魅力ある人たち」

第七章「市民運動に思う」

以上

目次

パン投げの後はいつぞ

そうです、いつぞゴミを拾い、あるいは
くずカゴのゴミを集めているのです。

陽光うららかな、天気の良い日はかりし

やない。冷たい北風が真っ正面から吹きつけ、
髪の毛も服も、パンの粉をまとまるとに浴びる日
と多いのです。

干潟と有名になりました。そしてそれに連

れて、人が来るとゴミも来るのです。活動と

いつよりと、行ずると言うべきか。唯
知る、細々と綿々と、クリーン作戦は続く。



手、汚れて冷たいや。でも、散ら
がしていた時に比べたら、一大進歩。

このハトの夫婦、毎日来る。



やってれば、調子が出てくるよ

元旦クリーン作戦

「初めでの後は、野鳥の楽園、谷津干潟で汗を流しませるか——習志野市にある谷津干潟の清掃活動を通じて谷津干潟の会と同干潟愛護研究会が「元旦（がんだん）クリーン作戦」への参加を呼びかけている。時間は午後一一時で、ゴミ手袋が軍手を用意し、干潟南側に集合のこと。



同干潟は十一月末、公害防止にしようというのが目的、干潟事業団の予算で整備され、開設には現在四十種約五千羽の野鳥の鳥獣保護区になる見込み。整が羽を休めておられ、森田さんは備決定には同研究会の森田三郎「寝正月もいければ、元旦にさんごの清掃活動が大きな力、干潟の自然と触れあちのもまたになった。元旦クリーン作戦、いいんじゃないですか」といっは、この動きを強く感じている。

・・・とにかく、初めちよつとやっておくと、アトがやりやすいというもの。

「只管打坐」を

そのまゝに

「元旦クリーン作戦」、やりたかったからやったままでのこと。

日記だってそうだよ。森田は十九の時

から、とにかくかくにき付け始めている。今、大
学ノートで九十二冊目。よく続いたと思う。こ
れからと、死ぬまで書き続けるだろう。
人はよく、「私には書く力がない」と言う。
冗談じゃない、よくに書きさしなりで、力なん
かつくわけないじゃないか。だいいち、よくに
書きさしなりで、どうして「能力」が無いなん
てわかるのか。そんな資格ないよ。力があるか
ら書くんじゃないよ、書くから力が出るんだよ。
なに、。「あたしは三日坊主だからって」、大
いに結構、三日坊主を年がら年中くり返せばい
い。ええ、「何を書くことがない」って。そん
なことはないよ。日付けと天気位、誰だって書
けるだろう。それでも駄目なら、「今日は何を
書くことはない」って書けばいいのさ。クリー
ン作戦と同じこと。だから、だから元気をだせ。

町角の話題にト---

で餌付けに成功

飛び交うユリカモメの群れ



パンくずに群がる谷津干潟のユリカモメ

カモメ、カモ、ハマシギなど約三十種類の野鳥の楽園として知られている谷津干潟が、このころ野鳥たちへの餌付けで賑わい、日曜日ともなると五十人ほ

れている秋津の中村容子さんが、五十八年十二月から始めたもの「オイ」と呼んでパンくずを投げると、野鳥たちが警戒しながら近づきつづいて来たので、それ以来、雨にも負けず風にも負けず毎日投げ続けることが、警戒心の強い野鳥たちの信頼を得たようだ。
「パンを持っていないときでも飛んで来るようになったり、あわててパンを買いに行ってもあるんですよ」と中村さん。
干潟周辺のパン屋さんの協力で、毎日投げるパンくずは約十時。午後二時、森田さんたちが水面にパンくずを投げる。砂地に羽根を休めキーン、キーン「ロー、ロー」と叫ぶ。よきに飛んでいたユリカモメ約九百羽が真っ白い翼を広げていっせいに飛び交い、千二百羽のカモも餌を求めて少しづつ近づいてくる。
「ガワ、ガワ」「ギヤ、ギヤ」と真つ赤なくちばしでパンくずを奪い合うユリカモメ、カモメの群に圧倒されながらも懸命に餌を追うカモ、足元まで近寄って来て餌をねだるハト、それぞれのしぐさがかわい

パン投げのこと、干潟のすぐ近くの秋津小学校で校内放送したという。そう言えば、子供がよく来ていたみたい。私産の出番が早くなるというなあ。



渡り鳥の休息地として全国的に知られる谷津干潟。餌付けに誘われ群れをなして乱舞するスナップ

い。「早く逃げて」「がんばれ」「五羽のカモメに追われながらも餌をくわえて必死に逃げ回るカモメに子どもたちの声援が飛ぶ。袖ヶ浦西小四年の鈴木真由さんは、冬休みに通った秋津の餌付けがきっかけで家族ぐるみの愛鳥家になり、パンくずをかかえて

は干潟に通っている。冬休みは毎日通ったという同小三年の滝智江さんも「鳥と友だちになりたい」と「三三」散策に来て初めて餌付けを見た若松小教諭大橋正明さんも「かわいいうのですね」と、野鳥の群にほじ見とれていた。これから四月にかけては三千

事務局 0474-517076 中村容子

ふがんど

第317号

1985.1.30

谷津干潟愛護研究会
〒270 習志野市谷津三七 鶴荘E号
電話 0474-515044

文責 森田三郎
会費 年2000
創立 1974.12.9

谷津干潟の自然公園化についての要望書

習志野市長

三上文一殿

私産は、この度の公害防止事業団による、谷津干潟周辺整備事業計画に対し、次の各項目について要望します。

一、計画、施行について、事前に十分な自然環境調査を行うこと。特に干潟は微妙な生態的バランスの上に成立しているものであるから、慎重に行うこと。

二、自然環境調査の方法、その結果、その評価などを地元住民、自然保護団体に完全に公開すること。

三、自然公園の計画段階から地元住民、自然保護団体に計画案を公表し、意見を述べる機会を与えること。

四、谷津干潟の水面部分は、いさかさを縮小しないこと。

五、自然緑地三ヘクタール分は、現状のまま、アシ原や草地、淡水池などとして維持し、必要不可欠な建造物以外、遊具などの構築物を設置しないこと。

六、現在造成済みの干潟南側の宅地を、自然緑地として復元する方法を追求すること。

七、野鳥観察を主体とする自然公園であるが、現在行われている釣り、カニ取り

などを続けらるるよう配慮すること。

八、現在使われている京葉道路際の船溜りの有効利用を考へること。

九、湾岸道路南側の干潟部分と、干潟本体と一体のものと考へること。

十、谷津干潟が首都圏、日本全体の中で、きわめてユニークですぐれた都市公園の素材であることを認識し、計画、施行に当っては拙速を避け、理想を高く持って、真に誇り得る自然公園を作ること。

十一、谷津干潟クリーン作戦や谷津干潟友の会への作業は、施工中に於いては行なわれない事。

十二、施工時において、干潟への悪影響及び、環境への差し障りが生じた場合は、直ちに中断すること。

十三、工事現場には、調査や観察のために、随時立ち入り出来ること。

十四、現在すでにある「谷津干潟野鳥観察舎建設基金」を利用し、プレハブ程度の観察舎、道具置場を設置すること。(県企業庁に申し出済み)

十五、干潟の北岸にある松の木約五十本は、保存し、かつ今後利用すること。(昭和五十二年に植栽)

十六、全てのことが、常に「臨床学的立場」において行なわれること。

以上

要望書は、市の他、県(自然保護課、都市整備課)、公害防止事業団へ提出。

全国的にと例がない谷津干潟をより良い形で残したいものです。

谷津干潟保護へ緩衝緑地

習志野市が市民団体に計画説明

63ターク、新年度から148億円かけ

習志野市が谷津干潟周辺に新年度から建設する緩衝緑地について、市は十八日、谷津干潟愛護研究会（森田三郎会長）、千葉の干潟を守る会（大浜清会長）など六つの自然保護団体の代表を招いて事業計画の概要説明を行った。干潟保護に各団体の意見を求めた。

この緑地は、総面積が六十三・三三ヘクタール（うち谷津干潟四十二・三三ヘクタール）を総額百四十八億円をかけて整備し、これと国道三五七号線沿いに隣接してスポーツ施設などを取り込んだ幅百メートルの緑地帯（二一・三三ヘクタール）を設ける。期間は今年度から四年間。まず、一分期として百億円が緑地帯の整備

に注ぐ。水質を改善し、水質向上に努力してほしい。千葉の干潟を守る会などの意見が出た。市では、今後も、自然保護団体との協力を続けていく。

谷津干潟の自然残して 保護団体に要望

公害防止事業法に基づき、鳥獣保護区化し、干潟に続く東都市公園として整備されることになった習志野市の谷津干潟の事業について同市は十八日、日本野鳥の会千葉県会など自然保護団体に事業概要を説明した。五十七年度までの四年間に百四十八億円を投入し、同干潟を開設

側からは、野鳥の会のほか、日本野鳥の会、千葉県自然保護連盟、鳥野鳥の会、谷津干潟愛護研究会など六団体が出席。市側の協力要請に対し、保護団体側は、谷津干潟が残るようになつたことを評価したうえで、「いじりすぎで自然を壊さないようにしてほしい」と求め、今後とも話し合ふの場を持つてほしいと希望した。

習志野市の谷津干潟整備

自然保護団体の声生かし

6団体代表に概要説明

習志野市の谷津干潟を中心とした「谷津干潟周辺整備計画」で、習志野市市長は八日六つの自然保護団体の代表を市消防局会に招き、同事業計画の概要を説明した。自然保護団体への説明は初めてで、三上文一市長は「大都市の中に残された貴重な自然を確保していきたい」とあいさつ。今後、鳥獣保護区の設定など、計画の中に自然保護団体の意見を採り入れていく方針を明らかにした。

鳥獣保護区設定に反映

この日の説明会には谷津干潟愛護研究会の森田三郎会長はじめ日本野鳥の会千葉支部、千葉県野鳥の会など六団体の代表が約十五人、それにオブザーバーとして県自然保護課、公害防止事業団の担当者らが出席した。

同整備計画は同市香澄から谷津までの国道三五七号線の内陸側に幅百メートルの緩衝緑地帯を設け、干潟を鳥獣保護区に設定し野鳥の楽園にするもので事業面積は六十三・六六ヘクタール。

事業費は約百四十八億円で、今年度から四年間で整備する。市では、一分期（面積二一・三三ヘクタール）は鳥獣保護区に指定し、二分期（面積四十二・三三ヘクタール）は鳥獣保護区に指定しない。一分期については鳥獣保護区に指定し、二分期については鳥獣保護区に指定しない。市側は、鳥獣保護区に指定し、二分期については鳥獣保護区に指定しない。市側は、鳥獣保護区に指定し、二分期については鳥獣保護区に指定しない。

自然保護団体が歓迎

谷津干潟の野鳥聖域化計画

公害防止事業法が、わが国初の自然干潟のサンクチュアリ（野鳥の聖域）として六十二年までに整備する計画が決定した習志野市の谷津干潟環境整備問題で、事業主体となる習志野市は十八日、干潟の保護活動を続けてきた日本野鳥保護連盟、日本野鳥の会、谷津干潟愛護研究会などの代表を招いて、計画の概要を説明した。説明会には、習志野市に敬意を表する「一待ち望んでいた計画で、今後も意見を出し合って立派なものにしてほしい」と歓迎する意見が相次いだ。



野鳥の聖域化計画が動き出した習志野市の谷津干潟

↑ 新新聞 1985.1.19 毎日新聞 ↓

これからと、回を重ねていきたくらいのことです。

谷津干潟の保存運動が始まってから十一年。ようやく今日の会合を持つ

ように至りました。常日頃よりひとかたがらめ協力をして頂いている会員の皆様に、この紙面を以てご連絡致します。思えば、ここに至るまで、長い激しい道のりでした。私達は、習志野市に全面的に協力していくのです。

↑ 千葉日報 1985.1.19

皆様の中に、ご意見や希望がありましたら、森田まで連絡して下さい。御願ひします。

ふかんど

号318号

1985.2.9

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津三七七 鷗荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田三郎

会費 年2000

創立 1974.12.9

「ハンカチ形の海の思い出」を読んで

法典小 五年 高橋 優子

たみ、バケツ、毛布、さまざまな物が、ぶよぶよとふくれ、変色し、くさって、ふゆかいなおいが立ちのぼってくる干潟。そこでも海の潮は満ち、ひき、小鳥達が卵を産み、ひなを育てている。その干潟のどろの中に腰までつかって、ごみをかたずけている人影、よごれていく自然を守ろうと、勇気と優しい心だけをぶきに立ち上がった人達。一人のおじさんと実行力のある少女エリカの優しい愛の物語に感動した。

エリカの家では、父の提案で「がんばる。」と言う言葉を使わずに、それを実行する事に決めている。「がんばる。」と言う事は、努力する、やりぬく、たえる事になるだろうから「がんばる。」と言うことを実行する事は大変な事だと思ふ。

転校して、なかなか友達が出来ないさびしさを、まぎらわすために、エリカは、毎日干潟へ行つた。そこでごみほり作業をしているおじさんと出会った。すでに十年間も、まわりのひなをあげながら、ごみそうじを続けているのだった。テレビも、ガスも無い、貧しい生活をしながらも、本を読んだり、みんなが無責任に捨てたごみを、一人でかたづけ、干潟のかん境をよくし、もっと鳥が集まるようにしている。報われる保証は、全く無しに、信念を貫くのは、大変な事だと思ふ。

そのころ、孝二の父は県の企業庁に勤め、干潟の整地仕事を忠実に実行していた。自分の仕事をやっているだけで、好きで自然をはかいていているわけではないのに、悪口を言われのは、気の毒に思ふ。

優秀

ハンカチ形の海の思い出

高郷小 五年 野尻 隆史

ぼく達が夏、なにげなく泳いでいる海。その海が今、よごれたり、うめ立てのため、へりつつある。そこで、その様な海が、どの様に変化して、犯されていくのか、一例を読んでみようと思つた。さて、この本の中に出てくる、よごれる海というのは、エリカという少女が住む、団地近くの干潟に始まる。

その干潟には、アシぶえおじさんという人がいた。そのおじさんは、くる日もくる日も、だれにたのまれたのでもなく、干潟のそうじをしている。そんなおじさんには、胸を打たれた。エリカの友達孝二の父は、企業庁に勤めている。そして、干潟がよごれるとすぐ孝二の家にはひんが飛ぶ。でも、本当によごれるのはいやなら、アシぶえおじさんのそうじを手伝えたいと思つたが、ひんを言っている人は、心の中で、あんなきたない干潟のそうじなんか、アシぶえおじさんにまかせておけばいいと思つてるにちがいない。少しは、アシぶえおじさんをみならうべきだ。おじさんの集めた干潟のごみぶくろの山ができて、しだいに高くなり、少しづつきれいになった。それを機会に、干潟を鳥獣保護区にしてしまえばよいのにとぼくは、思つた。しかし、その様にするには、沢山の費用がかかる事だろう。費用がかかるとなると断わるにちがいない。もっと早急に費用をかけなければならぬ所があるだろうから、保護区なんて二の次だろうな。よい事なのに、大切な自然を取りもどすためののに、費用にこだわられるとしたら、

しかし、エリカと孝二は、干潟を守ろうといっしょにおじさんの調査をひきついだ。

経済的なはん栄ばかりでなく、心をうるおすことの大切さに人々が気づき、反省しはじめると干潟が鳥じゅう保護区になるのはもう時間の問題だ。今までがんばったかいがあつたね、おじさん。でも、おじさんは、コロニーを待たずに、去って行ってしまった。人々の心に小さな命でも大切なんだとうたえながら。そんな、おじさんの事を、日本中、いや世界中の人々に知らせたい気がした。

大きなハンカチみたいにくっきりと四角く、青く光っているとり残された干潟で、おじさんの思い出を胸に、エリカと孝二が小鳥の営巣調査を続けていこうと決心したことは、とてもいい事だと思ふ。エリカは、がんばるとは言わずに、野鳥の環境を守り通したのだ。

自然には、人間の知えをこえた、あふれる生命力と微妙なもろさ、神秘で、おかしがたい不思議な所があることを知った。私も自然環境をこわさない様に小さなことから努力して行きたいと思ふ。

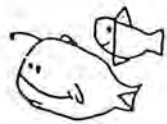
この物語のモデルとなった干潟は、習志野市の谷津干潟である。おじさん、孝二、エリカのような人達が作りあげたコロニーに、一度行きたいと思ふ。おじさんのアシぶえの音や干潟の鳥の声を聞きに。

(森百合子著・講談社)

何ともやりきれない気持ちだ。ようやく干潟もきれいになり、セイタカシギという野鳥が来た。ぼくが図鑑で調べた所、セイタカシギは、めったにいない珍鳥と書いてあつた。その珍鳥を求めて、この干潟に、新聞社や、テレビ局などの、報道陣が詰めかけた。アシぶえおじさんの努力も知らないで、自然をこわして行く。セイタカシギも死んだ。自然をこわすのは、人間の手によつた。そんなある日、埋め立てのために干潟にブルドーザーが五台も、やって来た。ハンカチ干潟がうめ立てられるのだ。ぼくは、その時思つた。海は役所の物ではない。みんなの物だ。自然は、人間が利用するためにあるのか、どんなに文化が進んでも、工場で作られても、自然は作れないのだ。そして、動物や自然を次々に追いつめ、きずつけていくのは人間のだから、それにきずつけられた自然は、もどらない。その後県庁では、干潟を鳥獣保護区にする計画が進められ、ついに決定した。お金のために、アシぶえおじさんの努力が、アスファルトの下へ埋められるといういやな気持ちは、消えた。しかし、せつかくアシぶえおじさんの夢がかなったのにアシぶえおじさんは、どこかへ行ってしまった。ぼくは思つている。アシぶえおじさんは、干潟を助けに来た海の精だと、そして干潟は、海の精が、鳥達に残してくれた青いハンカチだと、そして、その干潟の様な自然をぼく達は、守らなければならない役目があるのだ。

(森百合子著・講談社)

▲評▼本を読んで、自然に対する考えを深めている。本文にあるセイタカシギを図鑑で調べているが、よい読みかたである。終わりの文がよい。





小さく、ほんとに小さく、ていねいに千切っている。ままごとのつもりでいるのかと知らない。

なあーに、食べたってちっとなかまわらないさあ。だって、投げてみると、臭い香ばしいパンの匂いがして、ついこうなる。



とにかく触れ合おう
 一月中旬の、ある天気の良い日。私達が干潟に着いた時、すでに一人のお母さんに連れられて、子供達が十人程干潟に来ていた。私達がパンのミシシを持って来るのを待っていたのである。
 みんなでいっせいに投げる前にいっつか

の注意を乞えた。鳥をびっくりさせない為に大きな声を出さない、走らない、柵などに何かをぶつけない、音を出さないことなど。そしてかけ声と共にパンを投げると、来るは来るはやかましいのなんのって、と。とにかく、子供達にやらせてみようと思う。

タゲリ久々に谷津干潟に姿
 習志野市の谷津干潟にタゲリ九羽が現れ、羽を休めている。四年ほど前、一羽が来て以来で、頭の後ろに冠毛をくると巻いたかわいい姿を、干潟の清掃活動を続けている同市谷津タクシー運転手森田三郎さん(左)がパチリ。



谷津干潟に可愛い姿を見せたタゲリ

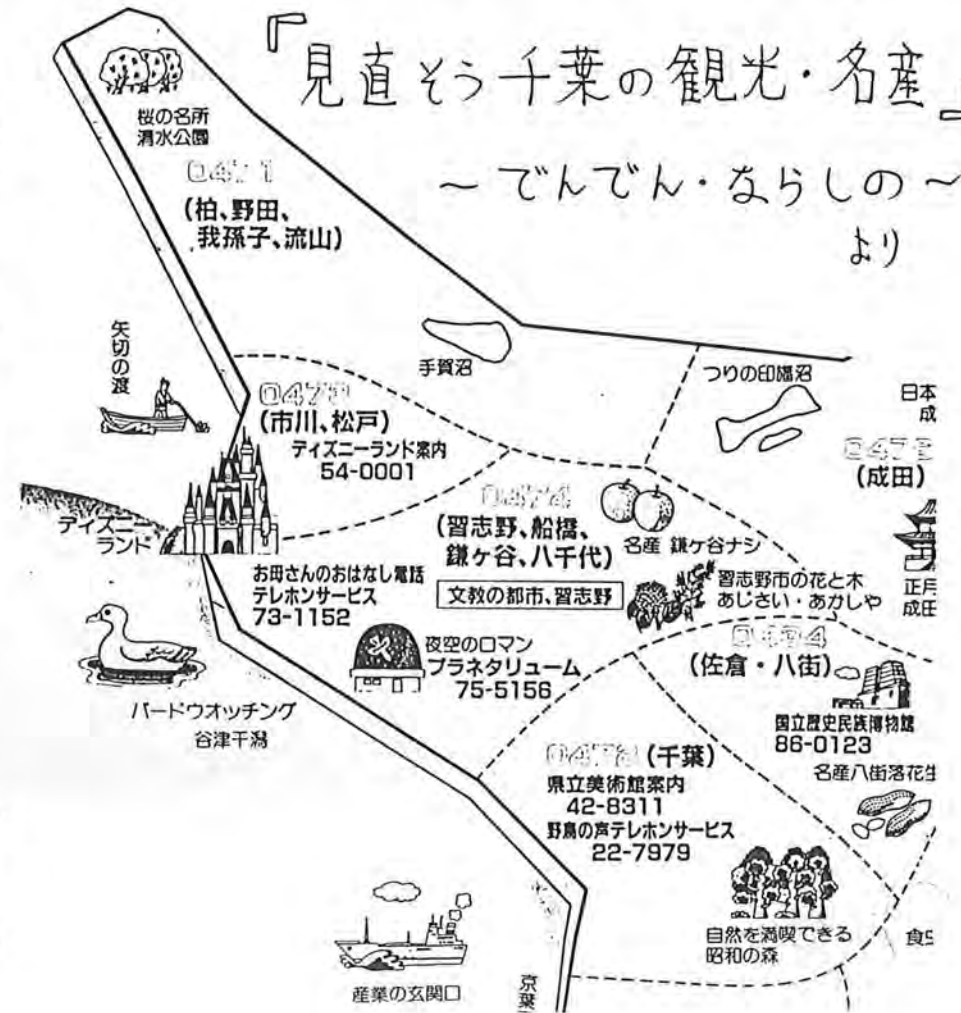
朝日新聞
 1985.1.3

海辺に降りるのは、あまり聞かない、と山階鳥類研究所。昨年十一月にみつかっで以来、同干潟の北西隅の一角でゴカイなどをついばんでいる。森田さんが、最初に清掃を手がけた場所、森田さんは、「干潟がきれいになったあかしです」と喜んでいる。

うれしいねえ、習志野市のシンボルに

『見直そう千葉の観光・名産』

～でんでん・ならしの～より



1984年 コアジサシ・シロチドリ・コチドリ 繁殖踏査

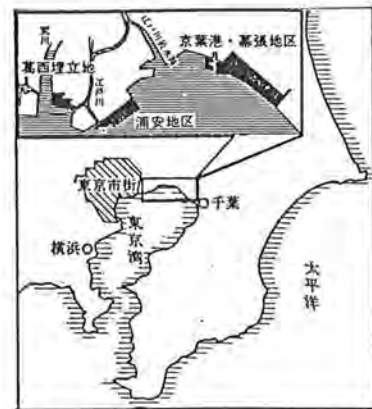
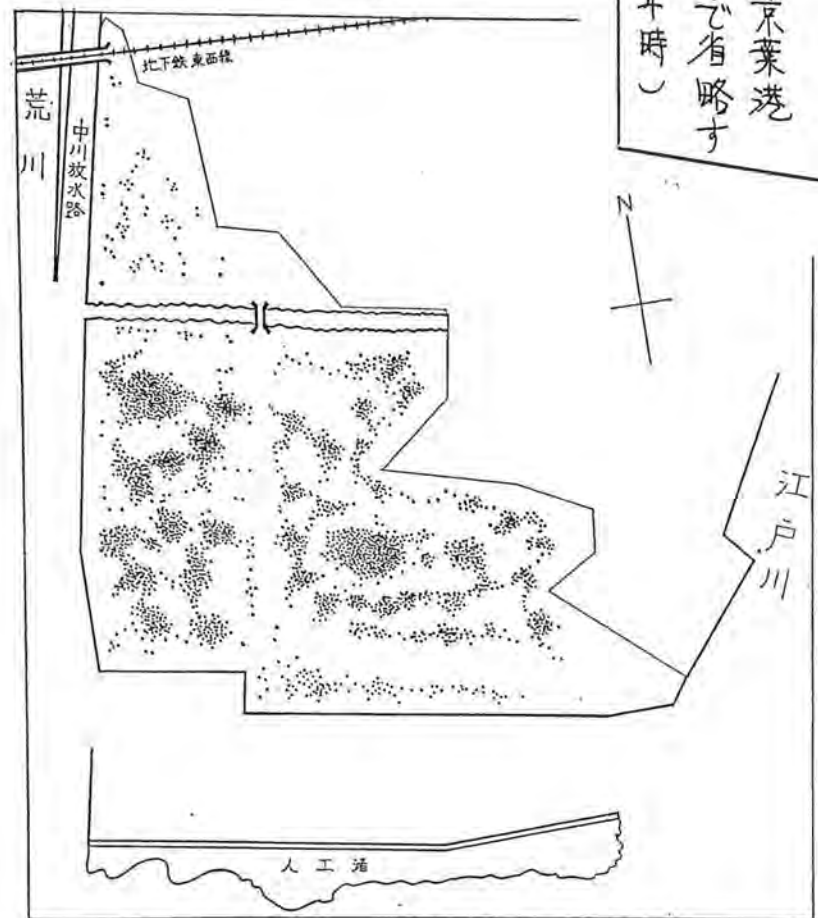
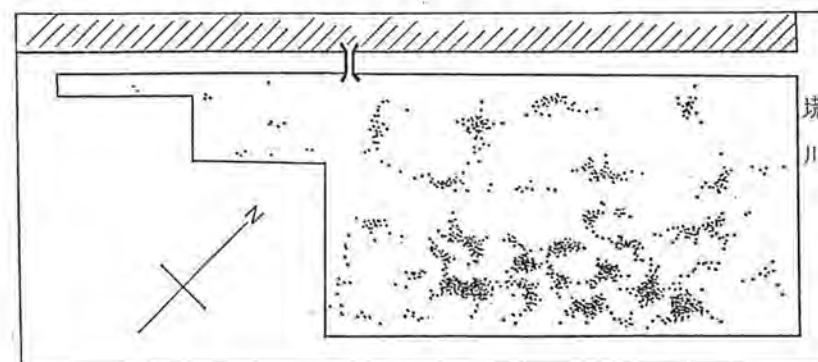


図1 調査地位置図：
黒くぬった部分が
踏査したところ。



↑ 1976年の葛西埋め立て地
↓ 1976年の浦安埋め立て地



分布図の説明

一頁が一巣を示す。

葛西、浦安、京葉港
は全滅したので省略す
(一九八四年時)

∴ 葛西埋め立て地、浦安埋め立て地、京葉港埋め立て地は全滅。

幕張埋め立て地



	巣	卵
コアジサシ	132	378
シロチドリ	92	263
コチドリ	5	20
計	229	651

1984年の巣と卵の数

表 コアジサシ・シロチドリ・コチドリの巣卵数。1976年4月10日～8月20日調査。表中の上段は巣の数を、下段は卵の数(*)印を示す。

種	コアジサシ	シロチドリ	コチドリ	計
埋立地				
幕張・京葉港	2,291 5,384*	2,508 7,338*	77 233*	4,876 12,955*
浦安	214 578*	531 1,524*	19 71*	764 2,173*
葛西	1,247 3,275*	1,063 3,049*	67 238*	2,377 6,562*
計	3,752 9,237*	4,102 11,911*	163 542*	8,017 21,690*

三地区の総面積は約二千六百haである。

ふかんど

オ319号

1985.2.21

谷津干潟愛護研究会
〒275 習志野市谷津三七七 鷗荘5号
電話〇四七四一五〇四四
文責 森田三郎

会費年2000

創立 1974.12.9

調査の発表が遅れて申し分けありません。四月には又コアジサシが来てしまっつ。

事務局 0474 51 7076 中村



卵のカラーから出る直前のコ
アジサシのヒナ。手前の卵の
黒い所がよの穴。クチバシが
中で動いているのがかわいい。



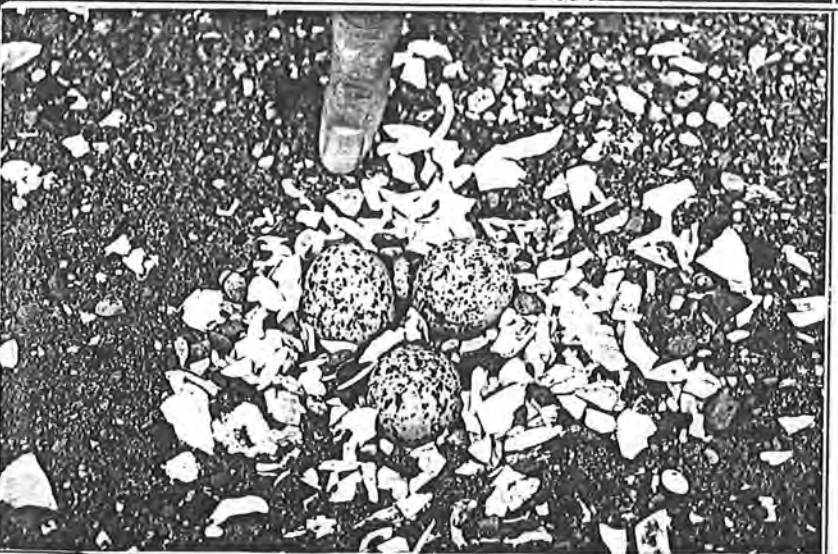
たった今、ここで卵か
ら出たばかりのコアジサ
シのヒナ。まだ目も見え
ず羽毛もぬれてる。よ
びの白いだ円形のものは
卵のカラー。親は用心の為
か、卵のカラーを喰わえて
處くて持って行ってしまふ。



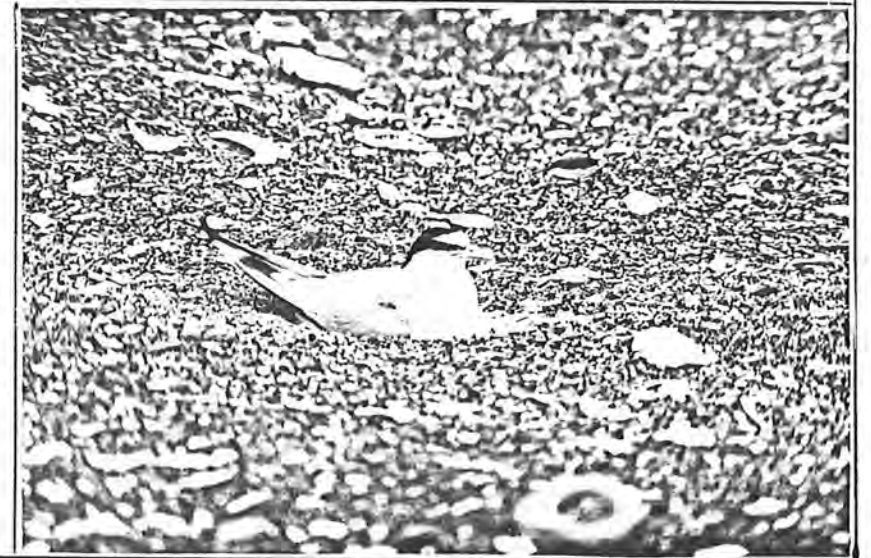
コチドリの卵。大体四つ。
本能の知恵か、最も密着して
最も小さな面積でいるよう
の形で卵がある。



「ほらっ、ほらっ、お母さん、
卵の中でピーピー鳴いてるよっ、
ヒナだよおー、お母さん聞えるん
だよおしと。母親の手の上には産
ま外たばかりの小さなヒナが。少
年よ、この感触を忘れたらなよ。



シロチドリの卵。こども
本能の知恵か、の形で。
コチドリもシロチドリも産
ま外て二、三時間歩き。
親からエサは全くとらわない。



ヒナを抱いているコアジサ
シ。腹の下に三羽いる。
どんな雨でも砂あらしで
親は毎日こうしている。オス
メス交代で抱き、他の一方は
魚を取りに行っている。

今年も調査します。昨年はお母さんや子供、そして老人会の人産を連れて行きました。又皆で見守ろうよ。

コアシサシと共に(1984年)繁殖踏査の報告

概要

この繁殖調査は、一九七五年より毎年続けて行なわれてきているものである。

鳥の種類は、コアシサシ、シロチドリ、コチドリの三種である。三種とよ渡り鳥であり、四月中旬より七月末に埋め立て地で繁殖する。

調査区域は、最盛時において、東京都の荒川河口から千葉市の花見川河口まで及んだ。すなわち、葛西、浦安、千葉港、幕張の埋め立て地である。(1976年)しかし、その後、開発と生息環境の変化により、この三種を含め次第に繁殖地をせばめられてゆき、一九八四年においては、千葉市幕張の埋め立て地の片隅にと追われゆき、コアシサシ、シロチドリ、コチドリにあつてはこのみを残すだけになった。しかた、この会報で発表した、一九八四年の幕張埋め立て地のコロニー(集田営巣地)と、八三年に新たに後凍された所に再び営巣されたものであつて、コロニーと呼ばれる所は四年前の一九八〇年に消滅しているのである。

八四年時の調査と、開発工事の只中で行なわれた。

コアシサシ産は、タンパカーの音と振動、スチームハンマーの響き、人の声、頭上にラジコン、ブルドーザの唸りを見、ローテ働きながら卵を産み、ヒナを育てていったのである。その他、野犬、釣り人、ゴルフの練習、心

ない人々による卵とヒナの喪失、モトクロス、砂ありし、大雨、強風などいくつかのものによつて、多くの卵とヒナが死んでいった。私産は毎日の如きコロニーに通つたが、無事に成長して空に飛んだのは、二、三割がいいところであつた。

調査方法

全て、短冊状、あるいはジグザグ状に歩いて一フーフ巣と卵をノートにチェックした。チェックした巣は、二重に数えなつた。一定方向(北)、一定距離に割びしを二つに折つた棒を立てていった。地面から三、五cm出して。

繁殖期間(調査期間)

四月中旬より八月月上旬まで。

コアシサシは五月二十日頃より七月末頃まで。シロチドリ・コチドリは四月中旬より八月月上旬頃まで。

巣の作り方

三種とも、地面に脚でおわん形の穴を掘り、多い少ないの差はあるが貝ガラを敷く。晴天の日は太陽、雨や気温の低い日は親が交代で卵とヒナを温める。

x x x x x

森田は、最後の一つが消えるまで、全滅するまで、いかなる障害があつてもやりぬく決意でいる。何故ならその下に、私の、少年時代の遠浅の海が眠っているから。

(詳細は、日本野鳥の会機関誌「野鳥」52年4月、同会千葉支部報51年を参照)

コアシサシはカモメの類で、オーストラリア・パプアニューギニアから。シロチドリ、コチドリはシベリアやカナダから飛来する。

この人、ある時私に「人面、食パンとバナナで、結構生きられるよ」ですって。「……」と私。

その舞台に登場します

いや、ほんと。この向、ロケ班が谷津干潟とそのまわりの埋め立て地、つまり現地の下見に来た。

これの脚本を書き、この映画で初めて監督としての立場に立って仕事をやる人を、

森田さまんざら知らないうけではない。ポルノ映画の是非はと角、その人の脚本家としての成巧を祈っているのです。

それはとうと、いやあ、谷津干潟と有名になりましたゆえ。久し振りに彼と、そしてロケ班の人達と会い、シナリオを見せて頂きました。さて、出来たら見に行おうと。



初めはカモメ、次にカモが

左の写真を見て下さい。

私達が干潟に行き、岸に立つと、パンを投げなくともユリカモメは飛んで来り、カモはぞろぞろ歩いて来るか、さきなくば近くまで飛んで来たり泳いで来る。

パンを投げる。水に落ちる前にワァーッとユリカモメがギャア〜鳴きながらつ

いばむ。だが、カモは、声の数に圧倒されてか、すぐそばで見ているだけ。で、ある程度腹が小さくしてくるせいか、カモメの数が少なくなると、最初二、三羽が、そしてぞろぞろと群を成してカモが割り込むようにしてつりばみ出す。日によってカモメの数が多くなれば、その数に反比例して、早くからドカドカと食べに来る。やがてカモだらけになると、グチャ〜音を立てて食べている。

ふかんど

オ320号

1985.2.30

谷津干潟愛護研究会
〒270 習志野市谷津三七七 鷗荘E号
電話〇四七四一五〇四四
文責 木林 田三郎

会費年2000

創立
1974.12.9

事務局0474・517076 中村容子

永らく習志野に住んでいました。

今年も又干潟に来て、クリーン作戦・ベンチの修理、とん汁の計画をしていくとの事。

訪問 のんたじゅう

9月30日、よく晴れた日、場所は谷津干潟。京葉NC観察会も午後になり、みんな干潟に出てドロコになった足を洗って、観察小屋のベンチに座りました。これから谷津干潟愛護研究会の森田三郎さんが、小さい頃の遊び場だった谷津干潟について、お話をしてくださいます。

静かになったみんなをゆっくりみまわすと森田さんは谷津干潟の思い出をひろげてくださいました。

『お母さんが夕方、仕事から帰ってくるので、それまでにご飯を作っておかなきゃならない。井戸から水をくんだり、まき屋さんへ行ってまきをついでくるのは、みんなと同じ年ぐらいだから、かなり重く感じるんだよ。それからナタでわって、乾かして、ご飯とおつけなんかも全部一人で作ってすぐに食べられるようにしておくのが、僕ら子供の仕事だったんだ。』

でもね、海やこういう所へ来て遊んでいるうちに夕やけで空が明るくなるでしょう？カラスがカアカア鳴いて、お豆腐屋さんがプーとラッパを吹きながらお豆腐を売る声が聞こえると、今まで遊んでいて楽しかったのが、なんだか急に悲しくなっちゃってね。昼間、あんなに楽しかった海とか、カニとか、空とか、草原が、急に悲しくなるんだ。遅く帰

ると、お父さんお母さんに叱られるのがわかってるんだけど、遊ぶことがやめられるなくて、泣きながらよく家に帰っていたよ。

その頃、この辺の海には、トビウオとか大きなカメや、時々海から迷いこんだイルカなんかもやってきていた。林とか田んぼもまだたくさんあって、この辺の言葉で『オンジョ』というギンヤンマが夏の夕暮れになると大群をつかって、今のセンター競馬場や大神宮、袖ガ浦団地のすぐ近くに雲がかぶったようにまっ黒になるほど群がっていたんだ。

夏休みに海の土手に立つと、遠く沖の方に浮かぶ房総半島が見えて、空には白い雲が浮いて、海には布の白帆をはった舟がまだいっぱい浮かんでいて、ギンヤンマとかオニヤンマが、波の方から飛んできた。よく僕たちは、魚の網をちょっと作り変えた専用の網でトンボ採りをしていました。

その頃にはこの辺に、ゴカイの穴に似ているシャコの穴が、いっぱいあってね。台所の包丁を持って竹やぶへ行き、竹を切って、それを穴にいれて息をプーって吹く。一つの穴がつながっているから、ブクブクとその穴からあぶくが出て、しばらくするとシャコがびっくりして、のこのこ出てくるんだ。

僕が、小学校を卒業して中学に入る頃から、海がどんどん埋められてきた。十年前、たまたま新聞に『なくなってしまふ谷津干潟』とか『消えていく野鳥の楽園』とかの新聞写真を見つけたんだ。でも谷津干潟とはいっても、僕の小さい頃のこの辺には深い所があったんで『ふかんど』って言っていたので、どこのことだかわからなかったんだ。でも新聞写真の隅っこの方に古い杭が立っていて、それを見ているうちに小さい時に遊んだ所じゃないかと思った。それで、当時住んでいた市川から習志野までオートバイできて、昔からここに住んでいる人に、「ここは昔『ふかんど』って言いませんでしたか？」って聞いたら、「そうだ」って。それで、僕はなんとなく海がかわいそうになっちゃったんだ。あんなきれいだっただけなのに、今はこんなにゴミが捨てられていて、きたないから臭いから埋めてしまえと。どんな海だって、カニだってサカナだって自分から好きこのんで汚れて死んで

これをきっかけに、森田さんナチュラリスト協会の会員になりました。子供産はよく働きます。でも、かわいそうなのは、汚れた手や足、顔を洗う所が何もないという事です。



干潟のゴミを森田さんはガタスキーで取っています。子供達もちょっとやらせてもらいました。



森田さんのトットツとしたお話にリーダーも思わず感動してしまいました。

いくわけじゃないのね。昔は、たくさんの人を遊ばせて役にたった海なのに、今は、ゴミを捨てられ邪魔者扱いされて埋めちゃえと。自分達だってゴミを出しているのに、それじゃあ海がかわいそうでしょう？ そう考えて、僕は十年前からゴミ拾いをやってきたんだ。

皆が座っているベンチも、集めて燃すだけのゴミだった流木を引っぱり上げて乾かして作ったんだよ。この小屋も、ここは夏、特に暑いので流木と竹を組み、近くのアシ原からアシを鎌で刈ってきて屋根をふいた。時々、子供達と一緒にテーブルとベンチのペンキ塗りもしているんだ。黄色い旗は、映画の『幸福の黄色いハンカチ』からヒントを得て、人が来ても来なくても、雨が降っても降らなくても一日も早く谷津干潟に幸福がくるようにと、二年前からあげ続けてきたんだ。

僕がどうがんばっても、お役所やまわりの人たちがどうがんばっても、昔の海はもう帰ってこないってことはわかっている。でも、これから先、みんなに干潟の観察が出来るよう、その役に立ちたいと。自分が鳥を見て楽しむよりも、鳥をみて楽しむ人達を見

て楽しみたいと.....わかりますか。そこに楽しみを見出したい、それが僕の心の中に浮んだ新しい心の水平線なんだ。』

森田さんは鳥の観察をする人達と、谷津干潟自然との橋渡しの役目をしてくれているんですね。観察会の時、小さな子供と遊びにきていたどこかのおじさんが『本当にキレイになったなあ。ちょっと前は.....』と話していました。日焼けした森田さんの干潟を見る時の優しくあたたかい目が、とても印象的でした。

(木村陽子リーダー 米田明子リーダー)

話のまとめ、編集、タイプなど、木村陽子さんどうも有難うございます。